

第Ⅳ章 合意形成や参画の促進に向けた取組み

第Ⅳ章 合意形成や参画の促進に向けた取り組み

1. VRを活用した普天間飛行場跡地利用における将来イメージの制作

(1) VR（ヴァーチャルリアリティ）の作成

1) VR作成の意義と目的

① 意義と目的

跡地利用の全体的なレビュー、県民、地権者、関係機関等とのイメージ共有並びに意見集約、行政協議や各種プレゼンテーションなど、本計画の具体化を効率的・継続的に支援することを目的とし、跡地利用計画のまちづくり将来イメージを中心とした汎用三次元デジタル空間である「多機能バーチャルリアリティ（VR）」コンテンツを制作する。

② VR活用方法

柔軟に更新できるVRの特徴をふまえ、普天間飛行場跡地利用計画においてのVR活用方法を以下に整理する。

- ・プロジェクト関係者間でのイメージ共有
- ・市民や地権者との合意形成
- ・周辺市街地と連携した地域景観のシミュレーション
- ・プロジェクトにおける効果的な運用・計画上のマネジメントに活用

③ 本調査でのねらい

本調査におけるVR制作のねらいは以下のとおりである。

- ・中間取りまとめの配置方針イメージの可視化すること
- ・VRを活用したプロモーションビデオ（PV）を作成すること
- ・計画内容の具体化に向けた議論のたたき台とすること

④ 本調査での留意事項

本調査におけるVR制作に係る留意事項は以下のとおりである。

- ・関係部局検討等の結果反映までには時間を要することから、全体計画の中間取りまとめから、骨格を想定し、たたき台を作成する。
- ・提案内容が柔軟かつ様々な可能性があることを示すため、想定された街の骨格を基に自然環境や建物の空間イメージを複数案作成する。
- ・「緑の中のまちづくり」や「沖縄らしさ」等の表現についての議論のベースとする。

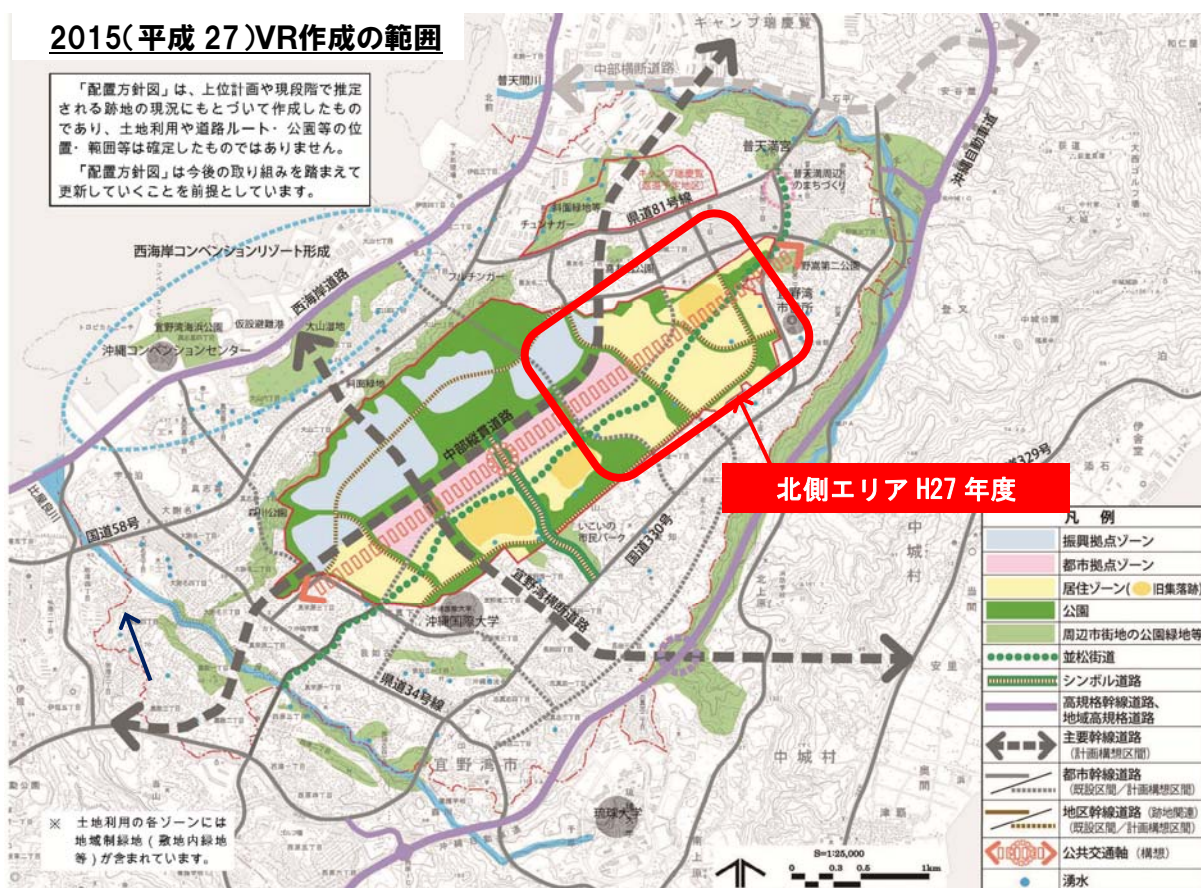
2) 2015 (平成 27) 年度の詳細 V R制作の考え方

① VRの作成の考え方

2015（平成 27）年度VR制作範囲は北側エリアを中心とした全体コンセプト、基盤整備、都市拠点ゾーン、振興拠点ゾーン、居住ゾーン等の土地利用を対象に、それぞれの項目について整備イメージの検討を行った結果に基づき、北側エリアのVR作成に向けた考え方について、具体的に整理した。

また、制作にあたる留意点は、以下のとおりである。

- ・ 県民、市民や地権者に土地の活用や生活のイメージが伝わるよう作成
 - ・ 県民、市民に向けた住宅のイメージや文化財・自然環境の保全・活用イメージが伝わるように作成
 - ・ 事業のリアリティがあるよう、ある程度夢と現実のバランスに配慮しながら作成
- * なお、作成上、広域道路や土地利用計画をある程度想定するが、現時点でのアウトプットとしては、部分イメージとして限定的に活用



図IV-1 2015（平成27）年度VR制作範囲

表Ⅳ-1 北側エリアのVR作成に向けた考え方

土地利用	北エリアのVR作成に向けた考え方
1. 基本的な考え方	・北部新駅を中心とした生活拠点とリアリティある住宅地等、地権者中心の生活空間の表現 ・西普天間住宅地区の国際医療拠点のしみだしの反映 ・遺跡、樹林地等の活用方策の具現化
2. 水と緑のネットワーク	・公園、道路及び施設、住宅敷地や屋上緑化等による緑被率の確保とネットワーク化 ・在来樹種による樹林地再現の精緻化 ・神山遺跡群を含む西側既存緑地の保全 ・北東側の残存緑地及び段丘緑地の保全（振興拠点ゾーンとの一体的活用） ・グラウンド部における防災公園の整備 ・遺跡群～グラウンドに至る緩やかな現況樹林における林間住宅としての活用 ・水源涵養のための水路緑道の整備 ・水辺の保全、創出及びネットワーク化
3. 道路及び交通インフラ	・国道330号までの整備案＝暫定型（A案）と道路再編を含めた整備案＝将来型（B案）の作成 ・地区外道路との接続を踏まえた幹線道路ネットワークの形成（地形に応じた柔軟な線形） ・新駅設置を想定した北側駅前広場の整備 ・北部シンボル道路の整備（西普天間住宅地区～シンボル道路～グラウンドに至る桜並木の創出） ・並松街道の整備による普天満宮参道への接続 ・道路毎にテーマをもつ沖縄らしい街路樹の整備
4. 都市拠点ゾーン	・北側駅前広場周辺における住商複合型高次施設の整備 ・中部縦貫道路沿道におけるロードサイド型商業施設の整備 ・産業集積による就業者来街者、新規住宅需要に対応する宿泊施設、中層集合住宅の整備
5. 振興拠点ゾーン	・西普天間住宅地区の国際医療拠点を補完する高次業務施設の整備 ・普天間中央エリアの研究開発機能のしみだしによる研究開発施設の整備（リサーチパークを具現化する植物工場プラント等の配置）
6. 居住ゾーン	・ニューアーバニズムを具現化するテーマ性を持った多様な住宅地を形成（クルドサック、ループ等、様々な道路パターンの活用） ・リアリティのあるアフォーダブル（標準型）住宅エリアの整備 ・樹林地の保全活用方法としての特徴ある林間住宅地の整備 ・幹線道路沿道における住商複合型集合住宅の整備 ・遺跡（保全活用方策含む）等の保全 ・教育施設（小学校、幼稚園）及び公益施設（公民館）の整備
7. 環境共生型まちづくり	・風力発電、太陽光パネル、EVステーション、BRT（連結バス）、エコカー等、要素技術の見える化
8. その他	・西普天間住宅地区との連携を表現 ・シンボル道路接続部及び隣接する地区外エリアの表現（白ハコ等による表現）

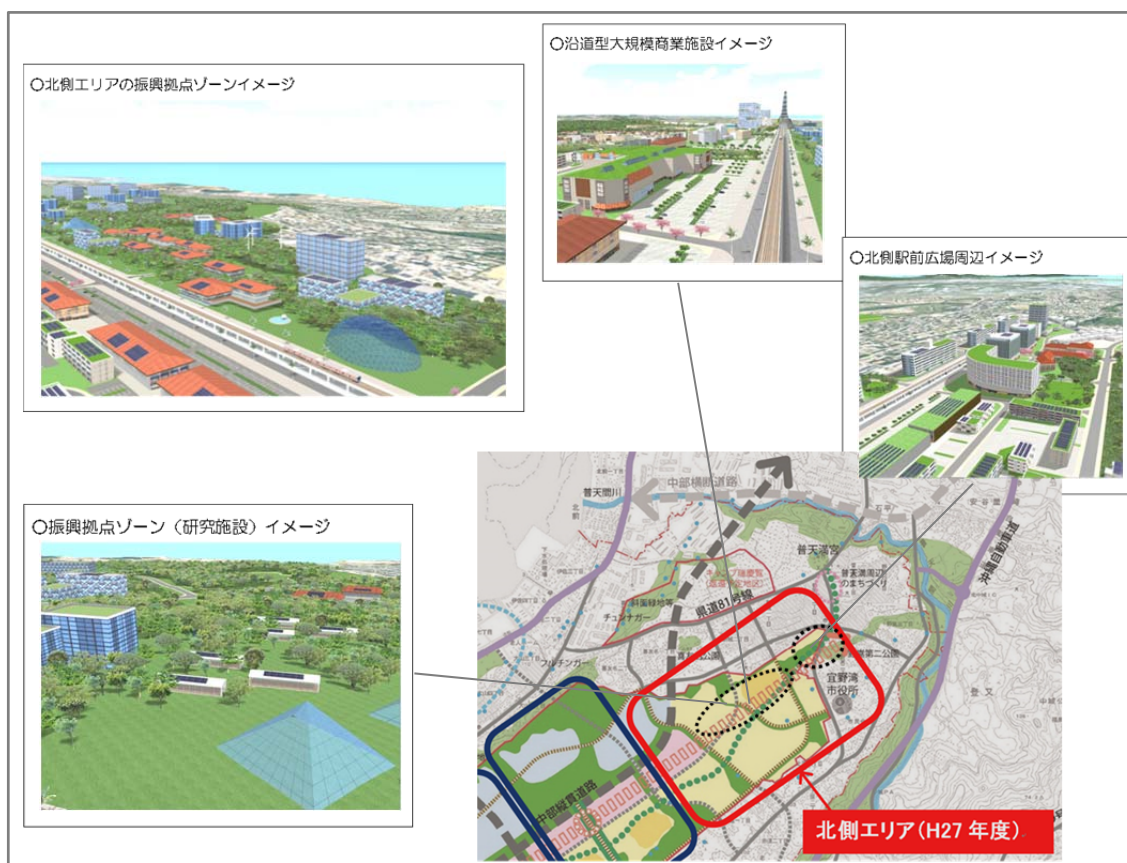
② イメージVRの作成について

■自然環境・文化財との連携イメージについて



図Ⅳ-2 自然環境・文化財との連携イメージ

■都市拠点ゾーン・振興拠点ゾーンのイメージについて



図Ⅳ-3 都市拠点ゾーン・振興拠点ゾーンのイメージ

■居住ゾーンのイメージについて



図Ⅳ-4 居住ゾーンのイメージ

■西普天間住宅地区との連携イメージについて

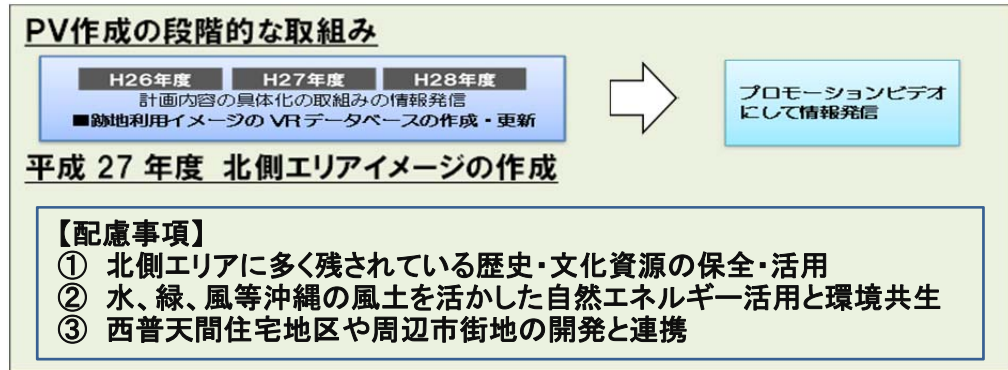


図Ⅳ-5 西普天間住宅地区との連携イメージ

(2) P V（プロモーションビデオ）の制作にあたって

1) P V制作の意義と目的

普天間飛行場跡地利用における将来イメージの検討内容をプロモーションビデオとして作成し、地権者、市民、県民に向けて情報発信し、跡地利用の気運醸成ツールとして活用するとともに意見聴取ツールとしても活用することを目的とする。

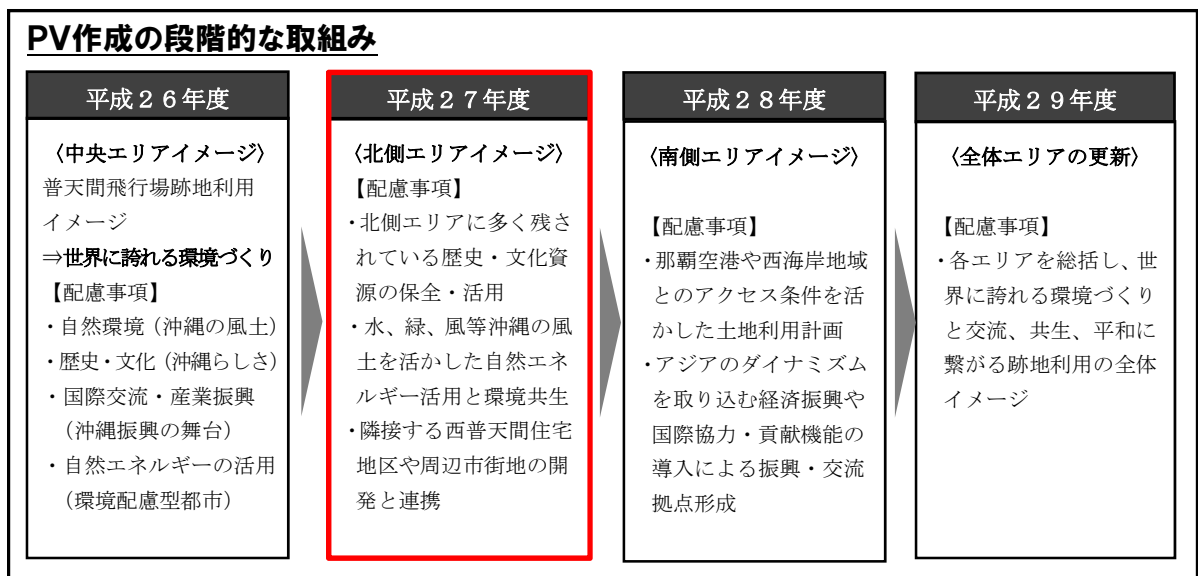


図Ⅳ-6 PV 作成の流れ

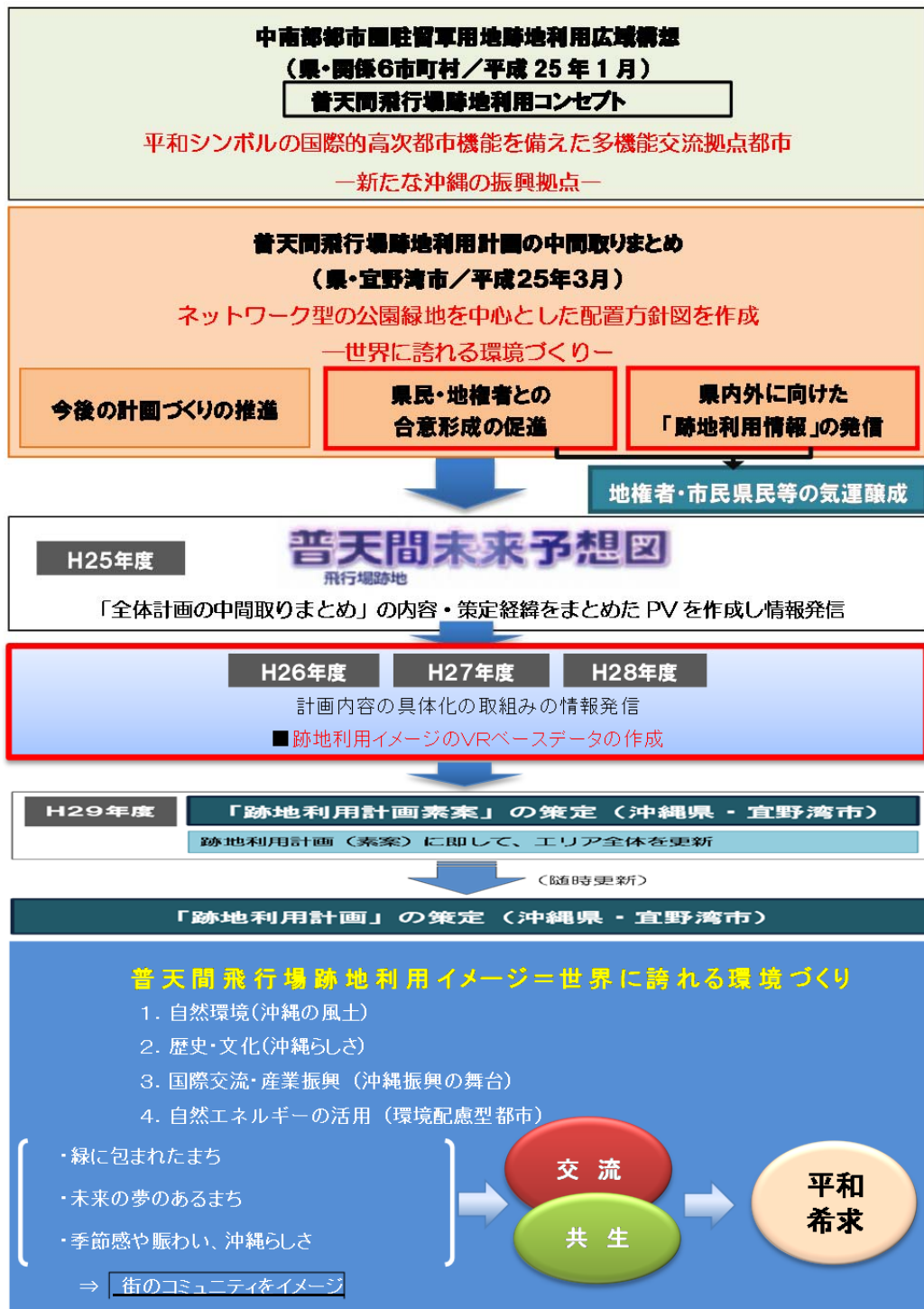
2) P Vの活用方法

P Vは多くの地権者、市民、県民へ情報発信することが重要と考え、地元の字ごとの郷友会、地主会、普天間飛行場の跡地利用を考える若手の会、ねたてのまちベースミーティングなど積極的に活動されている団体の会合等で見ていただく機会を設けて意見を聴取する。また、県のホームページ内の動画チャンネルに格納することで、さらに広く地権者、市民、県民のみなさんに見ていただくとともに、計画案づくりに関心を持ってもらえるようにする。

昨年度の主に中央エリアをイメージして作成したV R編 Vol. 1、今年度の主に北側エリアをイメージして作成したV R編 Vol. 2、更に来年度制作予定の主に南側エリアをイメージする Vol. 3 とのセットにより計画案の全体像がイメージしやすくなることを想定している。



図Ⅳ-7 PV 作成の段階的な取組み



図Ⅳ-8 PV作成の全体像

(3) P Vの制作

1) 全体会議・部会等からの意見

今年度のP V制作にあたり、全体会議や文化財・自然環境部会、土地利用・機能導入部会において、以下のような意見が挙げられた。そこで、それらを踏まえて今年度のP Vは3つの柱（視点）による構成とした。

全体会議の意見

○高齢者、若者、地域コミュニティ(地権者による旧集落コミュニティの継続、新たなコミュニティ)の活性化に配慮した計画づくりが必要

文化財・自然環境部会の意見

- ①地下水流域別の湧水量確保のための緑量
- ②自然環境と文化財が連携した保全活用
- ③文化財は新しい街の象徴として活用
- ④並松街道の再生は、跡地利用のシンボル

土地利用・機能導入部会の意見

- ①地下水涵養や風に配慮した水と緑の骨格形成
- ②集落再生にこだわらない新しいまちづくり
- ③西普天間住宅地区の国際医療拠点との連携
(新たな振興拠点ゾーン・北側新駅の提案)

■ 3つの柱（視点）

- ①沖縄らしさ（沖縄の歴史・文化を生かしたコミュニティの創成）
- ②環境共生（沖縄の風土を利用した自然エネルギー活用）
- ③沖縄振興の舞台（西普天間住宅地区の国際医療拠点との連携）

2) 普天間飛行場跡地利用計画の検討状況がイメージできる北側エリアのVRイメージの抽出

前述の3つの柱を踏まえ、VRで作成した将来イメージからP Vで用いるイメージを抽出した。

① 沖縄らしさ（沖縄の歴史・文化を生かしたコミュニティの創成）

- ・新しい街のアイデンティティとなる文化財の活用イメージ
- ・コミュニティ形成の契機となる交流施設イメージ
- ・並松街道の再生と歴史文化に寄り添う居住ゾーンのイメージ

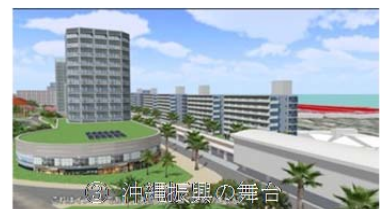
②環境共生（沖縄の風土を利用した自然エネルギー活用）

- ・地下水涵養に配慮した居住ゾーンのイメージ
- ・水の通り道と緑に配慮した緑道等配置イメージ
- ・地形や水脈を活かした環境に優しい自然エネルギー（風・水）の活用イメージ

③ 沖縄振興の舞台（西普天間住宅地区の国際医療拠点との連携）

- ・国際医療拠点の形成と連携した新たな研究施設群（振興拠点ゾーン）のイメージ
- ・北側新駅周辺のイメージ

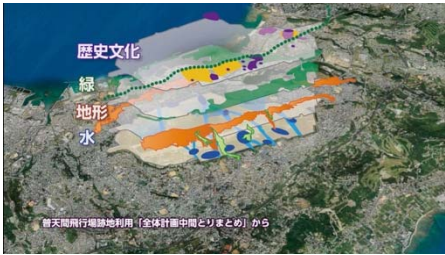
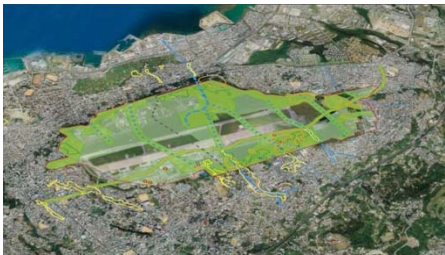
※「普天間飛行場跡地における新しいまちづくりとコミュニティ再生・創生」
ワークショップでの地権者・市民・有識者等の声も交えて



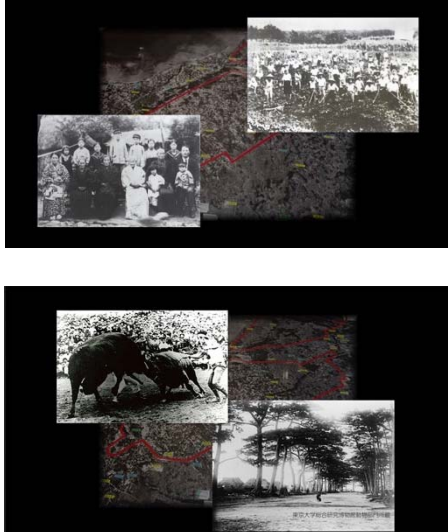
3) 今年度のPV制作・演出のポイント

- ・ 広く地権者や市民、県民からの声を反映させて計画案を策定していくことを呼びかけ
- ・ 昨年度のVR画像だけではなく、参考資料画像(イメージカット含む)を交えて地権者・市民・県民がイメージしやすいものとして、未来のまちづくりを想起
- ・ さらに地権者・市民等の声を効果的に交えて期待度を高める

表Ⅳ-2 今年度のPV制作・演出のポイント

No	Time	参考画像	コメント・音声
①プロローグ			
01	00:15		Na はいたいぐすーよ ちゅーうがなびら 普天間飛行場のあとにどんな町をつくるか…
02	17 /00:32	  	地下水の流れや地形を知り、歴史的文化財の場所を調べて、その保全や活用の考え方や方法を盛り込み、みなさんの声と、有識者からのご意見も伺いながら返還後のまちづくりを検討しています。

03	15 /00:47		Na 平成 26 年度は、跡地の中央エリアを、 4 つの視点でイメージしました。
04			Na そして、計画をよりよくしていくために、 さらに多くの地権者、市民、県民のみなさんにも考えていただき、
05	25 /01:12		新しく生まれるまちで、暮らし、学び、働 く人々が交流し、環境と共に生きていくた めには、地域の中での人のつながり「コミ ュニティが大切」というご意見を多くいた だきました。
06	13 /01:25		Na そこで、跡地の特徴を活かしながら人と人 がつながり広がっていくまちを、調査の結 果や有識者のご意見も踏まえ、今回は主に 北側エリアでイメージしてみました。
07			Na このエリアの特徴は、森や水脈などの自然 資源があること、その森の中には歴史や文 化遺産が多く残されていること
08	17 /01:52		Na そして、平成 27 年 3 月に返還され、現在、 国際医療拠点づくりに向けた取り組みを 進めている西普天間住宅地区跡地が、近く にあることです。

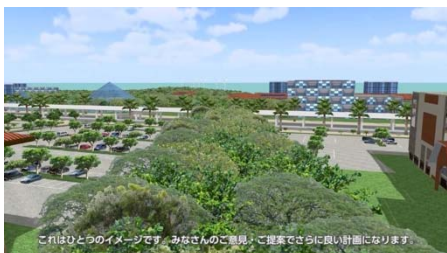
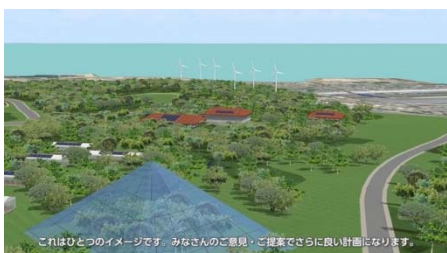
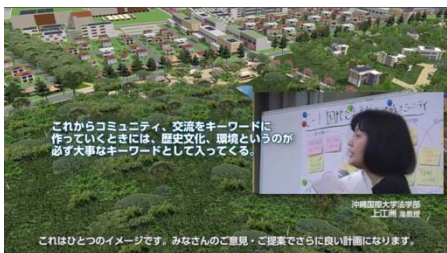
09	23 /02:15		Na これらの特徴から、歴史・文化を活かし、先人たちの知恵から学び、また周辺の跡地利用と連携しながら、様々なコミュニティを生み出す、未来のまちをイメージしてみました。
②歴史・文化（沖縄らしさ） 歴史文化を生かしたコミュニティ			
10			Na 普天間飛行場には、かつて立派な琉球松が並ぶ並松街道が通り、「じの〜ん間切」と呼ばれた宜野湾などの集落がありました。
11	18 /02:33		そこには、役場や国民学校があり、人々の生活の中心でした。
12	17 /02:50		(宮城さん) ふるさとであるし、学校も役場もあったし、村の中心だったんですね。この辺含めて公園にして市民の憩いの場にしたいと思います。
13	8 /02:58		Na 人々が集い楽しむ闘牛場や馬場もありました。

14	12 /03:10		(呉屋さん) もともとあった伝統芸能だとか、伝統文化を復活してそれを中心にコミュニティをつくっていかば…
15	10 /03:20		Na 森の中には、先祖に祈るウタキや、産湯の水、祝い水、お清めの水を汲んだカーがありました。
16			(富川さん) ウフガーっていう、生まれて最初の水につかうところがあるんですよね、そういう神聖な場所なんで、一番大事なことなんですよ。
17	22 /03:42		それを知らない子どもたちに、昔の人の生活を知って、こういう所に心の寄り所があったことを伝えたら…
18	8 /03:50		Na これら歴史的文化遺産は、みんなの精神（こころ）の寄り所であり、コミュニティの中心でした。
19			Na かつては宜野湾のシンボルだった並松街道を再生して、歴史や文化を身近に感じることができる、まちの軸にしてみました。

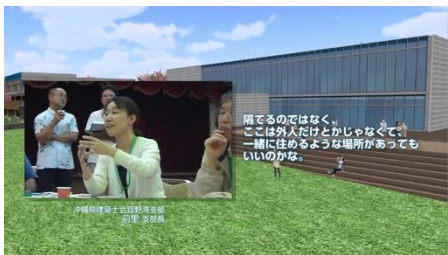
		これはひとつのイメージです。みなさんのご意見・ご提案でさらに良い計画になります。	
20	21 /04:11	これはひとつのイメージです。みなさんのご意見・ご提案でさらに良い計画になります。	Na かつて集落ごとにあった広場のように、住 まう人々の寄り所となるウタキやカーを 復元した公園がつながります。
21	8 /04:19	これはひとつのイメージです。みなさんのご意見・ご提案でさらに良い計画になります。 これはひとつのイメージです。みなさんのご意見・ご提案でさらに良い計画になります。	Na ガジュマルの大木と沖縄の伝統的な民家 から先人たちの暮らしや知恵を知る公園
22	12 /04:31	これはひとつのイメージです。みなさんのご意見・ご提案でさらに良い計画になります。 これはひとつのイメージです。みなさんのご意見・ご提案でさらに良い計画になります。	Na カーを中心に、子どもたちが水に親しむ公 園。

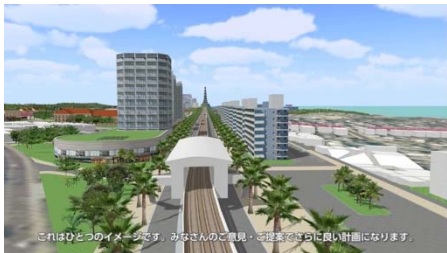
		 	
23	11 /04:42	 	Na 古い集落があったところには、緑が繁り水辺を近くに感じる住宅エリアをイメージしてみました。
24			Na 家の近くに流れる小川で、子どもたちが、小さな生きものたちに触れたり
25	18 /05:00		Na 隣近所が集まり、ゆんたくをしている風景を思い浮かべてみて下さい。

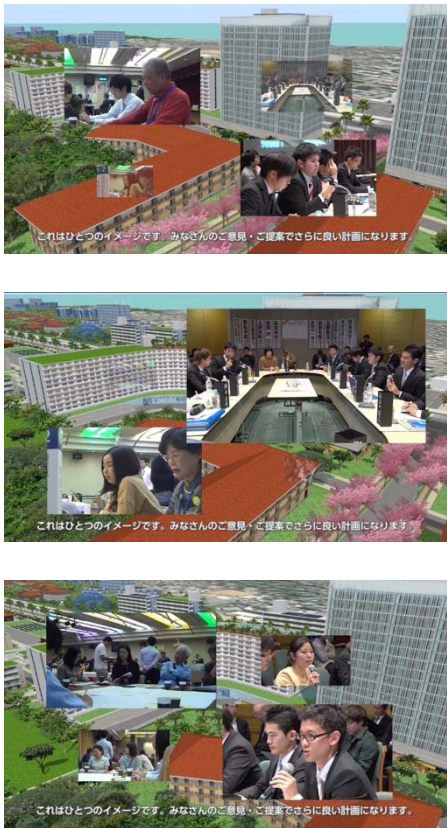
26	18 /05:18	 これはひとつのイメージです。みなさんのご意見・ご提案でさらに良い計画になります。	Na 跡地と周辺との境を防災公園やイベント広場などにすることで、周辺の人々との交流が生まれ、跡地と周辺の町はつながっていくことでしょう。
③環境共生（沖縄の風土）（先人の知恵から学ぶコミュニティ）			
27		 環境共生（沖縄の風土）	Na 普天間飛行場の地下には水の通り道があります。
28	17 /05:35	 環境共生（沖縄の風土）  	Na 雨が地面に吸い込まれ、琉球石灰岩層でろ過されて湧き水となり、田イモ畑や親水公園など宜野湾のまちを潤してきました。
29		 これはひとつのイメージです。みなさんのご意見・ご提案でさらに良い計画になります。	Na この水を保つために森や緑が大切な役割を果たしています。

30			Na 地下の水と緑を保全・活用するように、緑地と道路の配置を考えました。
31	22 /05:57		Na 水と緑は、まち全体の気温の上昇を抑え地球温暖化対策につながります。
32			Na かつては、夏に襲来する台風から、畑や暮らしを守るための防風林としても、森は大切にされていました。
33	23 /06:21		Na 潮風や強い日差しなど、自然の力を活かしてエネルギーを生みだし、それを上手に使って快適な暮らしができるまちをめざします。
34	13 /06:34		(上江洲先生) これからコミュニティ、交流をキーワードに作っていくときには、歴史文化、環境というのが必ず大事なキーワードとして入ってくる。
35	11 /06:45		Na 先人たちの知恵を活かしながら、みんなで力を合わせて、その役割をつなげることも、沖縄らしいまちづくりです。

④国際交流・貢献（沖縄振興の舞台）西普天間住宅地区跡地と連携したコミュニティ

36	22 /07:07		Na 沖縄の人々が大切にしている志に、世界を結ぶ架け橋となることを意味する「万国津梁」があります。 琉球王国の時代、沖縄は東アジアの中心として日本、中国、東南アジアの架け橋となり栄えていました。
37	10 /07:17		（前里さん） 隔てるのではなく、ここは外人だけとかじゃなくて、一緒に住めるような場所があってもいいのかな。
38	15 /07:28		Na 琉球の先人たちから受けついだ志を未来につなぎ、新しいまちに様々な人々が集えるよう、期待をかけています。
39			Na すでに返還された周辺の跡地では、琉球大学医学部と附属病院の移設が予定され、
40	15 /07:47		Na 先端医療や研究開発を行う国際医療拠点づくりに向けた取り組みが進められています。
41			Na 普天間飛行場跡地に新しくできる町にもサイエンスパークが広がり、医療施設や研究所に関わる人々が集まり、新たな暮らしが生まれることでしょう。

42		 これはひとつのイメージです。みなさんのご意見・ご提案でさらに良い計画になります。	Na 公共交通を利用して、那覇からの移動も格段に便利になることをイメージしてみました。
43		 これはひとつのイメージです。みなさんのご意見・ご提案でさらに良い計画になります。  これはひとつのイメージです。みなさんのご意見・ご提案でさらに良い計画になります。	Na 駅の周りには、おしゃれなお店やアミューズメント、文化ホールやホテルが並びまちに賑わいができます。
44	30 /08:27		Na まちが活気づけば働く場所も増え、経済も活性化します。 そして、何よりこのまちで暮らすみんなの夢が膨らみます。
45	18 /08:45	 沖縄にはゆいまーという素晴らしい助け合いの精神があるんです。  市民全体が共通の価値観をもって参加することで、自然は宜野湾の市民であること、それを楽しいと思える仕組みを今から作らないと。	(又吉会長) 沖縄にはゆいまーという、素晴らしい助け合いの精神があるんです。 市民全体が共通の価値観をもって参加することで自分は宜野湾の市民であること、それを楽しいと思える仕組みを今から作らないと。

46		 これはひとつのイメージです。みなさんのご意見・ご提案でさらに良い計画になります。 これはひとつのイメージです。みなさんのご意見・ご提案でさらに良い計画になります。 これはひとつのイメージです。みなさんのご意見・ご提案でさらに良い計画になります。	Na 新しいまちをつくること、それは、人と人との新しいつながりを作っていくこと。 そのためには、何が必要になるのか。 みんなで思いを寄せ合うことから、まちづくりは始まります。
47	22 /09:07	 これはひとつのイメージです。みなさんのご意見・ご提案でさらに良い計画になります。	
⑤エピローグ			
48	13 /09:20	 これはひとつのイメージです。みなさんのご意見・ご提案でさらに良い計画になります。	Na 今回は、主に北側エリアで 沖縄の歴史・文化遺産や自然資源を活かし、コミュニティを生み出すまちをイメージしてきました。
49	20 /09:40	 これはひとつのイメージです。みなさんのご意見・ご提案でさらに良い計画になります。	Na これから、地権者、市民、県民のみなさんの声を伺い、いまある周辺市街地とも連携しながら、普天間飛行場跡地利用の計画づくりに取り組んでまいります。 普天間未来予想図は、みなさんの意見でどんどん進化していきます。

50	16 /09:56		Na 次回は、振興・交流拠点をテーマに、那覇空港や西海岸地域をはじめ、東海岸地域までもつながる、主に南側エリアをイメージしてみます。 いっぺー・にふえー・でーびたん
51	12 /10:08	ご協力 宜野湾市軍用地等地主会の方々 宇宜野湾郷友会の方々 宇神山郷友会の方々 普天間飛行場の跡地を考える若手の会の方々 わたてのまちベースミーティングの方々 世代交流まちづくりゆんたく会に参加されたみなさま 学生円卓会議に参加されたみなさま ワークショップに参加されたみなさま	
52	2 /10:10	沖縄県/宜野湾市	

Total 10分10秒

(参考) 中で使用している写真の説明(主なもの)



大山タイモ畑


ゆんたくする人々
(那覇新都心公園)

我如古大主の墓
(日本軍陣跡地)


我如古まちあるき



垣花桶川



嘉手志ガー

(4) P V制作会議の開催（P V検討ゆんたく会）

1)会議の目的

普天間飛行場跡地利用計画に係るP V制作については、昨年度は有識者の意見を聞きながら行政側で作成したが、今年度は地元の声を反映させながら制作することとした。そこで、当会議は、今年度制作するP Vに地元の意見を反映させるため、地権者や地元で活動している方々などに積極的に意見を伺う機会としてP V制作会議（P V検討ゆんたく会）を開催した。

平成 27 年度 普天間飛行場跡地利用計画策定調査業務 P V 検討ゆんたく会

日 時 平成 28 年月 26 日(火)18:30～20:00

場 所 ジュビランス 2階でいご

出席者 ・沖縄国際大学 石原昌家名誉教授

・宜野湾市軍用地等地主会 又吉会長、佐喜眞副会長、又吉事務局長

・普天間飛行場の跡地を考える若手の会 呉屋副会長、富川氏、宮城氏

・ねたてのまちベースミーティング 呉屋会長

・沖縄県 高嶺主幹

・宜野湾市 多和田次長、内間担当主査

・事務局 UR リンケージ遠竹、澤、国建石嶺、協力会社 IPM高橋

2) 当日の進行・内容

① P V制作会議の背景について

計画案をより具体的なイメージで伝えるためVRイメージを作成し、それを活かしながら各エリアの特徴を分かり易くまとめてP Vを作成し、多くの地権者、市民、県民に認知してもらうと共にさまざまな意見を聞くことを目的としている。今年度は主に北側エリアのP Vを作成する過程で、地元を代表する方々ならではの視点での意見を聞く機会を設けてP V制作に反映させるため今回のような場をセットした。



会議の様子(PV検討ゆんたく会)

② コミュニティに関する意見交換

今年度の計画案策定の全体会議などを通じて“コミュニティ”がキーワードとして挙がっており、まず出席者のそれぞれの立場から普段コミュニティについてどのような考えや実践、あるいは課題などをお持ちになっているかを話していただいた。

PV会議の参加者からは、以下のようなさまざまな意見が挙がった。

- ・かつては隣近所の顔が見えたが、いまではどんな人が住んでいるのか顔が見えなくなってしまった。
- ・近所づきあいが疎遠になり、他人に無関心の傾向が強まっている。
- ・元々の住民と新たに入ってくる住民のコミュニケーションづくりのため、同じ行事に参加することなどはよいきっかけとなる。
- ・自治会活動をオープンにして丁寧に説明し、できるだけ参加を促すことが重要。
- ・子供（遊び友達、スポーツ）が媒介となって親も含めて交流が生まれることがある。
- ・両親が共働きしているなど家庭環境が大きく変化したり、自己主張する住民が増えており、共通の楽しみといった価値観の共有できる仕組みづくりが重要。
- ・子供の質が変わっており、いまの子供たちが集まれるような場づくりが必要である。
- ・自治会加入者が減っており、その原因の一つに寄付金がある。自治会の運営方法の検討が必要となっている。
- ・旧集落の人々のつながりは強いものがあつた。戦争や歴史の流れ、行政の変化により様変わりしている。古いものも残しつつ新たなまちでの共存が望ましい。



コミュニティについて議論の様子(PV検討ゆんたく会)

③ H27年度作成段階のVRの試写

現段階で作成しているVRを参加者に見ていただいた。作成中のVRについては事務局にて別途説明を加えた。



VR試写の様子(PV検討ゆんたく会)

④ 自由意見交換

PVやVRについて自由にご発言いただき、参加者の方々から以下のような意見が挙がった。

- ・基地内にあった旧集落の伝統芸能・文化を復活したい。
- ・ヨーロッパのまちにあるようなさまざまなイベントが開催できる大広場があるとよい。交流の場になる。
- ・沖縄らしい仕掛けとして池にステージを設置するなど水上でのイベントができるとよい。
- ・スポーツの盛んな宜野湾市では車いすのマラソン大会が開催されている。道路の規制など運営面の課題が大規模公園の活用などで解消されるとよい。
- ・大規模公園を使ったマラソン大会などできるとよい（ニューヨークのセントラルパークで開催しているような）。
- ・マラソン大会の休憩所等にカーを活用してみるとよい。
- ・コミュニティの拠点が必要。自治会、子どもたちなど幅広く対象としたもの。あるいはベンチャー（起業家）が気軽に利用できる拠点で、いろいろな方たちとの交流もできるとよい。
- ・終の棲家となるような場所となるような環境があるとよい。

今回出席者からいただいた意見を参考にPVを制作することを事務局より説明し閉会した。

2. 跡地利用に関する気運の醸成を図る催しの提案及び開催運営

(1) ワークショップ開催目的とその背景

『沖縄21世紀ビジョン基本計画（平成24年5月）』においては、中南部都市圏の大規模な駐留軍用地の跡地について、県土構造の再編を視野に入れながら、有効かつ適切な利用を推進することにより、中南部都市圏の都市構造の歪みを是正し、沖縄全体の発展につなげていくこととしている。

沖縄県と宜野湾市は、中南部都市圏の中心に位置する普天間飛行場跡地について、平成25年3月に「全体計画の中間とりまとめ」を共同で策定し、文化財や自然環境資源など地域の特性を踏まえた「世界に誇れる環境づくり」の実現に向けて具体的な取り組みを進めているところである。

普天間飛行場跡地利用計画は、「自然環境（沖縄の風土）」、「歴史・文化（沖縄らしさ）」、「国際交流・産業振興（沖縄振興の舞台）」、「自然エネルギーの活用（環境配慮型都市）」の4つを軸にして検討を進めている。

その中で、基地内に残る歴史・文化や自然資源の保全や活用等を図りながら地域の住民が相互に支え合う社会環境や、海外からの移住者等の視点を踏まえた新しい時代に合った地域コミュニティ形成のあり方等について検討が必要とされている。

今回のワークショップは、普天間飛行場跡地利用計画を検討するにあたり、基地内に残る歴史・文化資源を保全・活用した沖縄らしい地域コミュニティづくりがどうあるべきかといった視点や、自然環境を保全しながら環境に配慮した都市の生活様式と新しい時代の地域コミュニティのイメージ、海外からの来訪者や移住者等との交流が盛んとなる跡地利用において地域コミュニティを形成するための取り組み等に関して議論し、平成29年度に策定予定の普天間飛行場跡地利用計画（素案）へ意見を反映させる目的で開催した。

(2) ワークショップのプログラム内容

1) 講演

① 「字宜野湾の伝統文化と郷友会活動について」（報告）

講師：宮城政一 氏（字宜野湾郷友会会長）

普天間飛行場跡地内にある字宜野湾は、基地内のウフガーの清掃や土帝君の再生、戦後数十年ぶりに復活させた大綱引き、独自でまちづくりマスタープランを作成するなど郷友会の活動は幅広い。かつての並松街道の写真や貴重な映像等を交え字宜野湾の伝統文化と郷友会活動について報告を受けた。

② 「銘苅新都心自治会コミュニティの3つの宝について」（報告）

講師：前原信達 氏（銘苅新都心自治会会長）

那覇新都心の銘苅新都心自治会は、結成から約10年の新しい自治会である。自治会内の銘苅小学校内には玉城朝薫の組踊「銘苅子」の発祥の地が現存し、約10年前の開校から現在まで続く自治会の子ども達による「銘苅子」の上演は新たな伝統になっている。基地跡地の銘苅新都心自治会の3つの宝をヒントに、今後の地域コ

コミュニティのあり方を考える。

2) H26 年度 PV「普天間□□場跡地未来予想図 VR 編（中央エリア）上映

普天間飛行場跡地利用計画策定に向けて、広く県民の意見や提案を募集すべく、平成 26 年度に作成された「普天間飛行場跡地未来予想図」と題して、普天間飛行場跡地の中央エリアを中心に街づくりのイメージをまとめたプロモーションビデオを上映。



3) ワークショップ

今回のワークショップでは、普天間飛行場跡地利用に関する 3 つのテーマに基づいて、様々な主体が交流して、新しいコミュニティをどう形成していくのかについて議論した。

① 歴史・文化資源と地域コミュニティ

普天間飛行場跡地に残る歴史・文化資源を保全活用しながら、これまでの地域の活動を活かし、若者や高齢者など居住者に配慮した、沖縄らしい地域コミュニティを新しいまちでどう再生し活性化するのか。

② 環境共生と地域コミュニティ

基地内に残る自然環境を保全・活用しながら、環境配慮型の都市づくりを目指した場合、都市住民の生活様式や地域単位で取り組むべき活動等が求められる。新しいまちで取り組む、環境に配慮した地域コミュニティはどの様にイメージできるか。

③ 国際交流・貢献と地域コミュニティ

普天間飛行場跡地においては、沖縄振興の舞台となる振興拠点ゾーンを中心に国際交流・貢献施設の立地が想定されている。海外からの来訪者や移住者が増加していくなか地域のコミュニティを形成するための取り組みをどう考えるのか。

(3) ワークショップ参加者

■参加人数一覧表					
NO	団 体 名	参加人数	NO	団 体 名	参加人数
1	喜友名自治会	1	12	宜野湾市軍用地等地主会	2
2	普天間3区自治会	2	13	普天間飛行場の跡地を考える若手の会	2
3	野嵩2区自治会	4	14	字宜野湾郷友会	3
4	中原自治会	3	15	字神山郷友会	2
5	愛知自治会	1	16	字新城郷友会	2
6	宜野湾自治会	4	17	ねだてのまちベースミーティング	3
7	上大謝名自治会	3	18	沖縄県建築士会宜野湾支部	2
8	真志喜自治会	1	19	沖縄国際大学	9
9	大山自治会	1	20	沖縄キリスト教学院大学	1
10	伊佐自治会	2	21	JA宜野湾支店女性部	1
11	宜野湾市婦人連合会	4	計		53

(4) ワークショップ配布資料

1) チラシ

(表)

普天間飛行場跡地における新しい まちづくりとコミュニティ

～普天間飛行場跡地利用計画策定に係るワークショップ～

再生・創生

講演

「字宜野湾の伝統文化と郷友会活動について」
宮城 政一 氏（字宜野湾郷友会会長）

「銘苅新都心自治会コミュニティの3つの宝について」
前原 信達 氏（銘苅新都心自治会会長）

PV上映

H26 年度 PV「普天間飛行場跡地未来予想図
VR 編（中央エリア）」

ワークショップ

ワールドカフェ方式によるワークショップ

テーマ

① 歴史・文化資源と地域コミュニティ

② 環境共生と地域コミュニティ

③ 国際交流・貢献と地域コミュニティ

みんなで
つくる
普天間の未来

2016

3.19

(土)

ワールドカフェとは？

“カフェ”にいるように
リラックスした雰囲気
の中、テーブルごとの
テーマについて自由な
対話ができるグループ
コミュニケーション手
法です。

13:00	受付
13:30	開会
13:35	ワークショップ 開催の趣旨説明
13:40	講演
14:20	PV 等の上映
14:45	ワークショップ
16:20	閉会

JA おきなわジュビランス 4 階ホール

(宜野湾市)

お問い合わせ先

主催：沖縄県、宜野湾市

後援：宜野湾市自治会長会、宜野湾市軍用地等地主会、
沖縄県軍用地等地主会連合会、沖縄県建築士会宜野湾支部

沖縄県 企画部 企画調整課 跡地利用推進班
TEL：098-866-2108 担当：高嶺、東江
宜野湾市 基地政策部 まち未来課 まち未来係
TEL：098-893-4411 (内線308) 担当：内間

(裏)

■開催目的とその背景

『沖縄21世紀ビジョン基本計画(平成24年5月)』においては、中南部都市圏の大規模な駐留軍用地の跡地について、県土構造の再編を視野に入れながら、有効かつ適切な利用を推進することにより、中南部都市圏の都市構造の歪みを是正し、沖縄全体の発展につなげていくこととしております。

沖縄県と宜野湾市は、中南部都市圏の中心に位置する普天間飛行場跡地について、平成25年3月に「全体計画の中間とりまとめ」を共同で策定し、文化財や自然環境資源など地域の特性を踏まえた「世界に誇れる環境づくり」の実現に向けて具体的な取り組みを進めているところであります。

普天間飛行場跡地利用計画は、「自然環境(沖縄の風土)」、「歴史・文化(沖縄らしさ)」、「国際交流・産業振興(沖縄振興の舞台)」、「自然エネルギーの活用(環境配慮型都市)」の4つを軸にして検討を進めています。

その中で、基地内に残る歴史・文化や自然資源の保全や活用等を図りながら地域の住民が相互に支え合う社会環境や、海外からの移住者等の視点を踏まえた新しい時代に合った地域コミュニティ形成のあり方等について検討が必要とされています。

今回のワークショップは、普天間飛行場跡地利用計画を検討するにあたり、基地内に残る歴史・文化資源を保全・活用した沖縄らしい地域コミュニティづくりがどうあるべきかといった視点や、自然環境を保全しながら環境に配慮した都市の生活様式と新しい時代の地域コミュニティのイメージ、海外からの来訪者や移住者等との交流が盛んとなる跡地利用において地域コミュニティを形成するための取組み等に関して議論し、平成29年度に策定予定の普天間飛行場跡地利用計画(素案)へ意見を反映させる目的で開催するものです。

■講演内容

①「宇宜野湾の伝統文化と郷友会活動について」(報告)

宮城政一 氏(宇宜野湾郷友会会長)

普天間飛行場跡地内にある宇宜野湾は、基地内のウフガーの清掃や土帝君の再生、戦後数十年ぶりに復活させた大綱引き、独自でまちづくりマスタープランを作成するなど郷友会の活動は幅広い。かつての並松街道の写真や貴重な映像等を交え宇宜野湾の伝統文化と郷友会活動について報告を受ける。

②「銘苅新都心自治会コミュニティの3つの宝について」(報告)

前原信達 氏(銘苅新都心自治会会長)

那覇新都心の銘苅新都心自治会は、結成から約10年の新しい自治会である。自治会内の銘苅小学校内には玉城朝薫の組踊「銘苅子」の発祥の地が現存し、約10年前の開校から現在まで続く自治会の子ども達による「銘苅子」の上演は新たな伝統になっている。基地跡地の銘苅新都心自治会の3つの宝をヒントに、今後の地域コミュニティのあり方を考える。

■ワークショップ

今回のワークショップでは、普天間飛行場跡地利用に関する3つのテーマに基づいて、様々な主体が交流して、新しいコミュニティをどう形成していくのかについて議論する。

①歴史・文化資源と 地域コミュニティ

普天間飛行場跡地に残る歴史・文化資源を保全活用しながら、これまでの地域の活動を活かし、若者や高齢者など居住者に配慮した、沖縄らしい地域コミュニティを新しいまちでどう再生し活性化するのか。

②環境共生と 地域コミュニティ

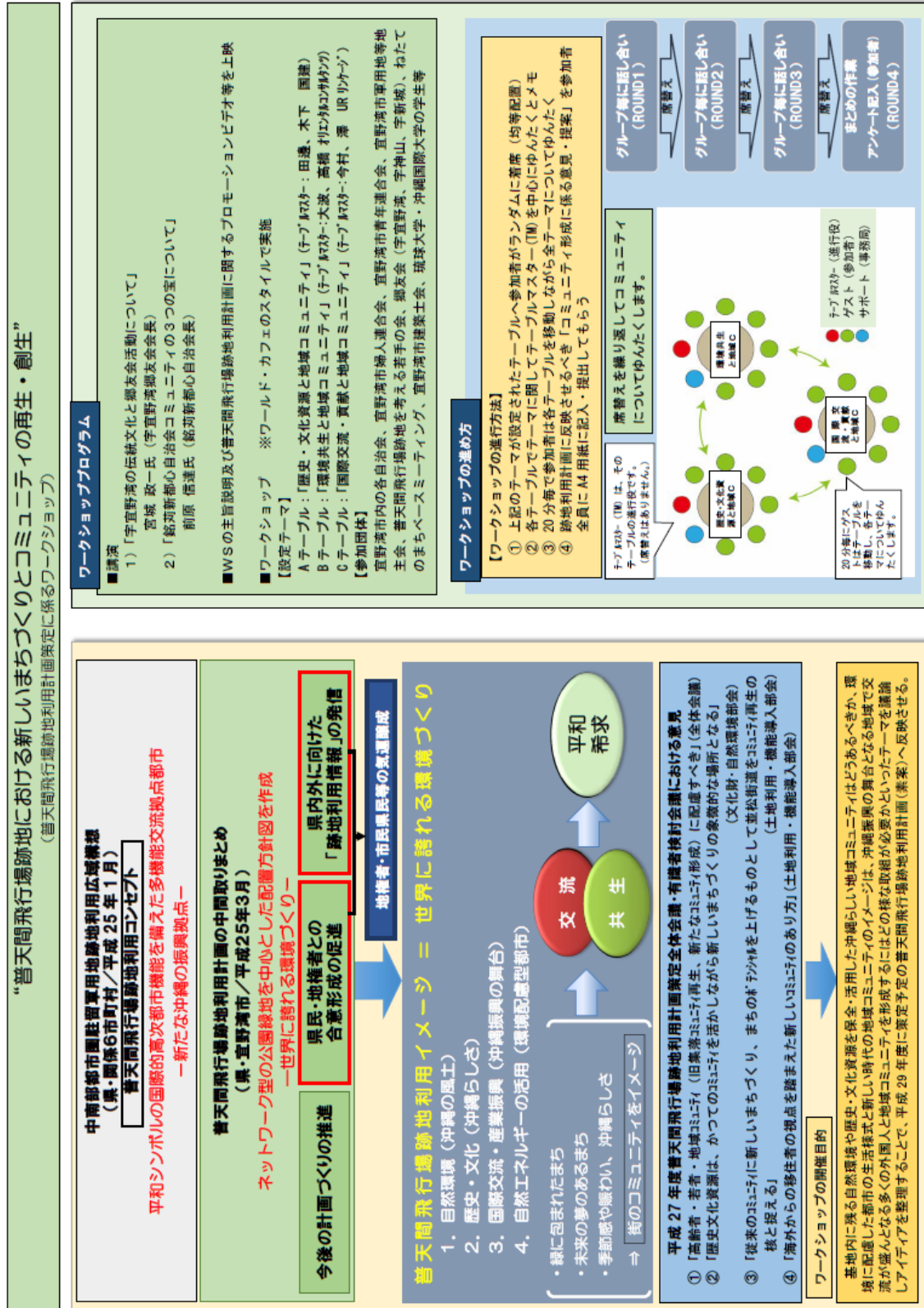
基地内に残る自然環境を保全・活用しながら、環境配慮型の都市づくりを目指した場合、都市住民の生活様式や地域単位で取り組むべき活動等が求められる。新しいまちで取り組む、環境に配慮した地域コミュニティはどの様にイメージできるか。

③国際交流・貢献と 地域コミュニティ

普天間飛行場跡地においては、沖縄振興の舞台となる振興拠点ゾーンを中心に国際交流・貢献施設の立地が想定されている。海外からの来訪者や移住者が増加していくなか地域のコミュニティを形成するための取り組みをどう考えるのか。

2) ワークショップ補助説明資料

① ワークショップの開催目的・進め方に関する説明



② テーマA：歴史・文化資源と地域コミュニティに関する補助説明資料

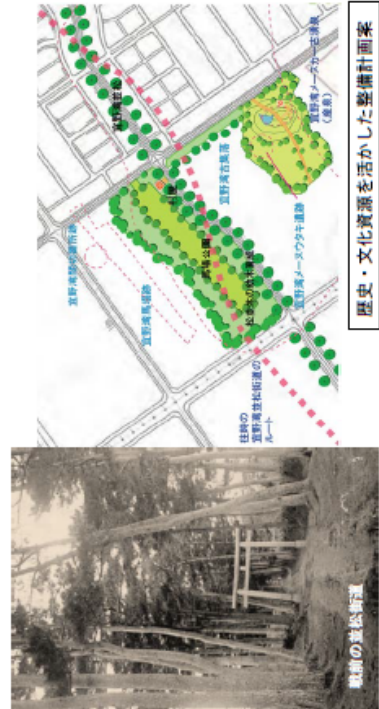
テーマA：歴史・文化資源と地域コミュニティ

【現況と課題】

- ①跡地内にはかつて、宜野湾の中心地で学校や役場、馬場等がありました。
- ②また、カーや拝所、闘牛場跡、特徴的な洞穴内にある拝所など多くの歴史・文化資源が残っています。
- ③森川公園のミイヌカーは羽衣伝説で有名、拝所にもなっています。
- ④宜野湾並松街道の再生は、跡地利用のシンボリックな取組みになります。
- ⑤跡地内の集落跡・遺跡等の一部復元し、公園や緑地としての保全・活用が考えられます。
- ⑥字宜野湾郷友会は毎年、基地内のウフガー（産泉）で清掃活動や拝みを行っている他、幅広い年代がコミュニティ活動に参加しています。
- ⑦宜野湾市の青年会は、平和学習会や成人式の企画、青年エイサー祭を開催するなど活動が盛んです。

【歴史・文化資源と地域コミュニティについて】

- ①跡地内に多くの歴史・文化的資源があることを知っていますか？
- ②それらをどの様に保全・活用すれば、地域の生活とつなげることができそうですか？
- ③宜野湾並松街道の復元や集落跡・遺跡等を公園や緑地として保全・活用する計画案をどの様に考えますか？
- ④歴史・文化的資源の保全・活用とまちづくりに、どの様に関わることが望ましいと考えますか？
- ⑤あなたの地域で文化財に限らず、身近で歴史・文化的に大切なもの、保全・活用すべきものはありますか？



③ テーマB：環境共生と地域コミュニティに関する補助説明資料

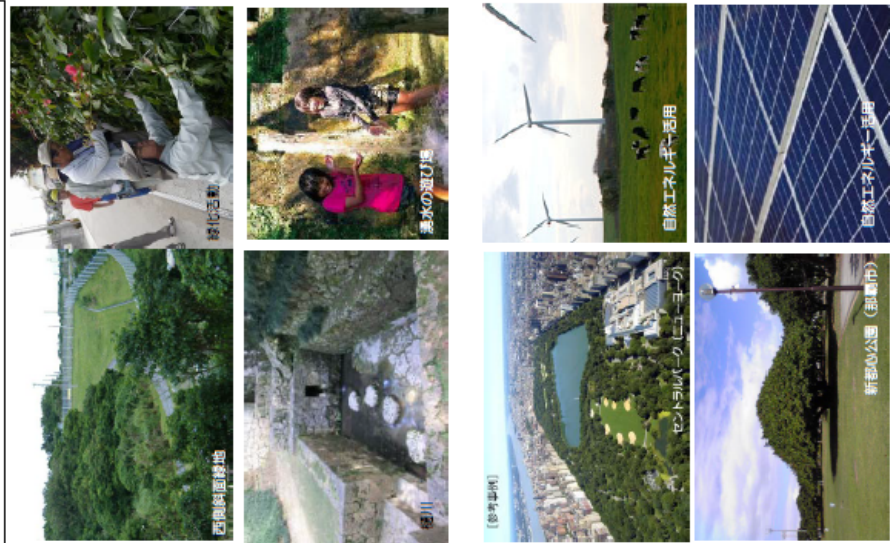
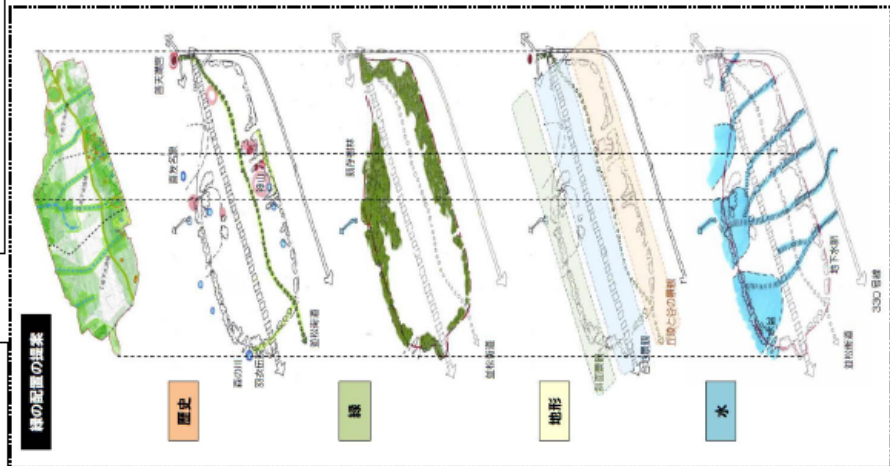
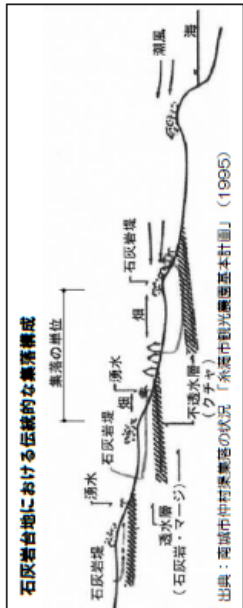
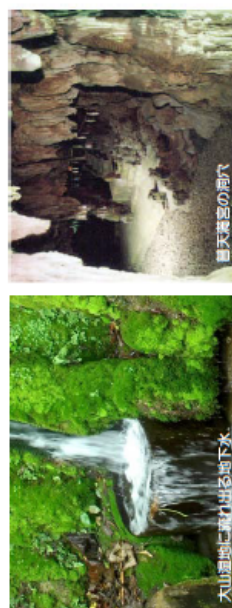
テーマB：環境共生と地域コミュニティ

【現況と課題】

- ① 石灰岩層で構成される台地の地下には洞穴や地下水脈が多く存在します。
- ② 地下水の涵養、地下水脈の保全を図るため緑を多く残す必要があります。
- ③ 基地内に残された緑と周辺をつなぐ緑のネットワークの形成が必要です。
- ④ 沖縄振興の舞台となる「緑の中のまちづくり」が環境づくりの方針です。
- ⑤ 「世界に誇れる環境づくり」の実現を目指した跡地利用が推進されます。
- ⑥ 地球温暖化対策や持続可能な社会の構築は県全体の課題です。

【環境共生とコミュニティについて】

- ① 跡地内の自然環境の状況を知っていましたか？
- ② 自然環境（地下水、緑、生態系、洞穴等）をまちの中にどう残しますか？
- ③ 「緑の中のまちづくり」には、どのような環境で、どんな緑があるのでしょうか？
- ④ 地域で、環境面で住民活動していることはありますか？
- ⑤ 自然エネルギーの活用や地球温暖化対策等で、返還された後に、地域全体で新しく取り組みそうなことはありますか？



④ テーマC：国際交流・貢献と地域コミュニティに関する補助説明資料

テーマC: 国際交流・貢献と地域コミュニティ

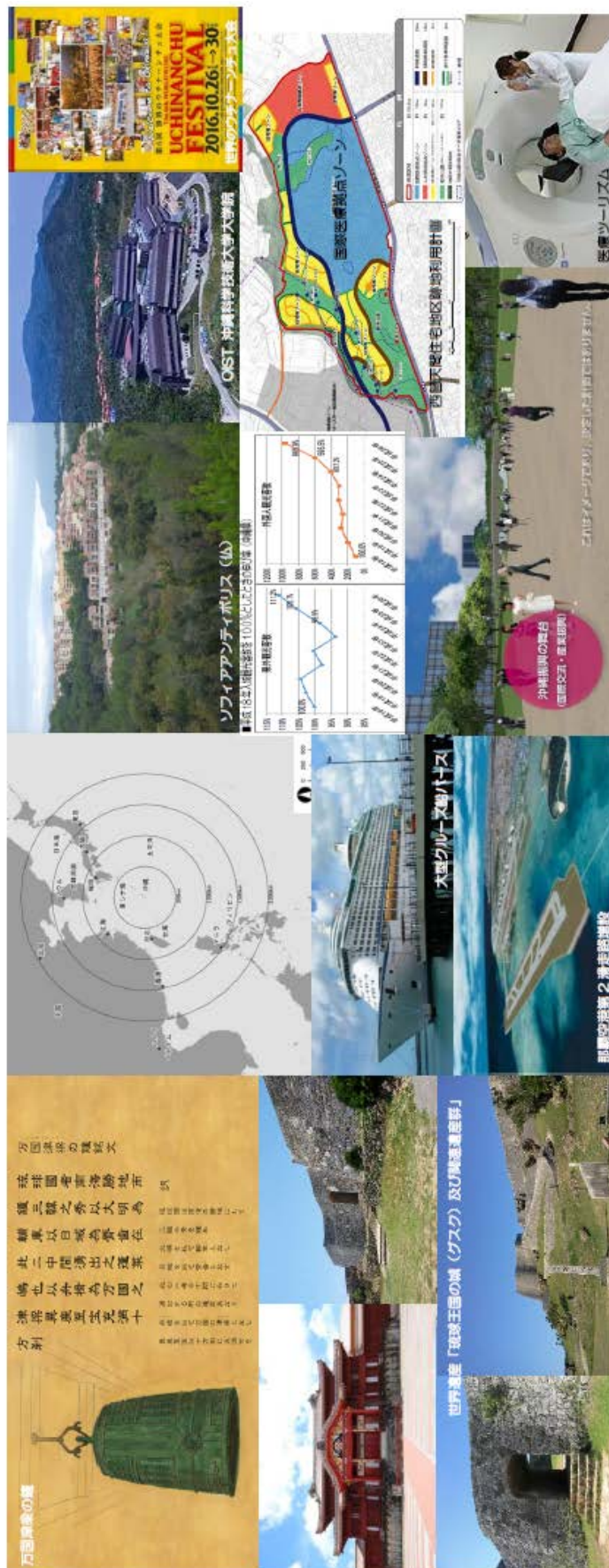
【現況と課題】

- ① 東アジアの中心に位置する沖縄は、琉球王国の時代から日本、中国、東南アジアの架け橋として来えています。
- ② 幹線道路の整備や鉄軌道等の公共交通の整備などにより、空港や港とのアクセスがよくなります。
- ③ 普天間飛行場跡地利用では、「平和のシンボル」をコンセプトとして掲げています。
- ④ 効地には、国際交流の拠点となる大規模な公園や国際的な研究機関の立地が想定されています。
- ⑤ 西首天間住宅地区には、琉球大学医学部及び附属病院が移転するなど国際医療拠点が形成されます。
- ⑥ 周道型観光から体験型・交流型へと観光ニーズが変化するとされています。(医療ツーリズムやエコツーリズムなどへの期待があります)
- ⑦ 沖縄の世界遺産や伝統文化は集客力があり、ウチナーンチュウのネットワークも世界に拡大し、近年は外国人観光客や外国人移住者も増加傾向にあります。



【国際交流・貢献と地域コミュニティについて】

- ① ④ 交流で栄えたかつての琉球と現在、未来を重ねると普天間飛行場の跡地利用に期待するものは何だと考えますか？
- ② アクセシ性が向上して来訪者が増えるときに、まちづくりで大事なことは何だと考えますか？
- ③ 跡地にできる大規模公園は、どのように使うと「国際交流の場、平和のシンボル」になると考えますか？
- ④ 国際医療拠点と連携した医療ツーリズムのために必要なものは何だと考えますか？
- ⑤ 沖縄の歴史や文化、自然環境に期待して訪れる方のために、自分たちができること、役割をどのように考えますか？



(5) ワークショップの様子



▲会場全体の様子①



▲会場全体の様子②



▲お菓子や飲み物の用意



▲各班にランダムに振り分け



▲いろんな世代の人たちが各テーブルに



▲宮城政一さんの講演の様子①



▲宮城政一さんの講演の様子②



▲前原信達さんの講演の様子①



▲前原信達さんの講演の様子②



▲VR 上映の様子



▲各テーブルのテーマとルール説明

テーマA: 歴史・文化資源とコミュニティーのテーブル風景



▲自己紹介などのアイスブレイク(A-1)



▲多世代での議論(A-2)



▲参加者の熱心な議論(A-1)



▲参加者の熱心な議論(A-2)

テーマB: 環境共生と地域コミュニティのテーブル風景



▲各々のテーマに合わせて議論(B-1)



▲地図などを使いながら議論(B-2)



▲参加者の熱心な議論(B-1)



▲資料を交えながらの議論(B-2)

テーマC: 国際交流・貢献と地域コミュニティのテーブル風景



▲思い思いの議論を交わす(C-1)



▲各々のテーマに合わせて議論(C-2)



▲真剣に聞き入る参加者たち(C-1)



▲参加者の意見を引き出すテーブルマスター(C-2)



▲最初のカフェに戻り、まとめを行う①



▲最初のカフェに戻り、まとめを行う②



▲テーブルマスターの意見とりまとめ作業



▲テーブルマスターによるまとめ(テーマA)



▲テーブルマスターによるまとめ(テーマB)



▲テーブルマスターによるまとめ(テーマC)



▲上江洲先生の講評

(6) テーマ別ワークシートのまとめ**1) テーマA：歴史・文化資源と地位コミュニティ****① 拝所・文化財の保存・活用について**

- 拝みは自治会や地域がつかないでいく。
- 各地域の文化遺産は保全し活用する。
- ただ保全するだけでなく、地域と話し保全する意味を考える。
- 基地内での拝所清掃に子、孫を参加。
- 失われた拝所・遺跡の復元を。
- その場所に残してもらいたい。
- 歴史・文化を感じる場所をつくってもらいたい。
- 土帝君・御嶽は沖縄独自の文化。観光資源にもなる。
- 御嶽は地域の大事なもの。観光客は来なくても良い。
- 文化財は保全だけでは駄目！活用が重要である。
- 新しいまちづくりのための文化財の取り扱いを考えるべき。
- 観光と文化財の両立。
- 拝所・文化財の周りはあったまちなみを。上にビルでは合わない。
- 森の川 駐車場確保で観光資源になる。
- 文化財を「パワースポット」としてPR
- 文化財があるところに説明の中で、なぜこの文化財が必要なのか示す必要がある。
- 泉・カーを中心に公園・緑地に。
- 泉・カー等公園と一緒に残していく。
- 歴史文化的資源の保全活用について①歴史ロードの整備 ②伝統文化保全に向け、各区への保存作業を市主導型で。
- 拝所、聖地として星が見えるような場に。
- 文化資源巡り、観光コースに入れる。
- 歴史・文化を巡る遊歩道の整備
- 松並木・拝所、気楽に入れる c a f e、公園等

② 並松街道について

- 松並木を全体計画の中でうまく取り入れて欲しい。
- 次の世代に残す（並松街道）。
- 松に導かれて目的地へ行ける。木陰がつづく。
- 馬を通す土の道（の並松）
- 既存の自然を利用しても良いのでは（並松の再現）
- 並松は復元が望ましい！
- 皇居みたいな松の森をつくる。安心して遊べる。
- フェンス沿い緑地部分に並松街道をつくる。
- 公園と一体化した並松。
- 公園と一体化し、シンボルとなる並松を再現。

- 見たことはないが再生したら良い。新しいシンボル（並松）。
- 時代の流れを表す場所（並松）。
- 車の通らない並松街道。
- （並松は）歩道のみ！車はNO！
- 宜野湾周辺に並松みたいに散歩コースがあれば。
- 【提案】並松を“まち”のシンボル化
- 跡地に必ずつくる必要はない。
- 交通事情も考えるべき（並松街道）
- 松を市民と植える！！一人一本！！
- どこから松を持ってくる？
- 10年、20年かけて育てる。
- 100年後の並松を育てる！
- 【ヒント】クロキを植えて100年後に三線。
- 植樹を通してコミュニケーション
- 市民公園で苗を育て、まちづくりの時に植える。
- My松！！
- マツヤニが出てくる街路樹。根が張る。工夫が必要。

③ 洞穴やガマについて

- 東側のフェンス付近の洞窟は守る必要あり。
- 水・洞窟・カー・文化遺跡ともセット。
- 洞窟呑み口は残すこと。
- ガマ・水 遊び場とすることで大事にする。
- 陣地壕も遊び場に活用。
- ガマを利用した遊びの場を整備！！
- 洞窟探検ツアー（資源化）
- 洞窟を観光・教育に活かす。
- 小中学校の教育に活かしてほしい（平和学習）。
- 無駄な照明はつくらないように！
- 壕の保存+観光+公園
- 洞窟・自然をアートに。
- 戦争遺構も残すべき（整備）！！教育・学習。

④ ウマイー（馬場）

- ウマイー県下最大。活かす！
- ウマハラシー
- 馬はらし復活。

⑤ コミュニケーションの場・交流の場について

- 自由度の高いコミュニケーションの場を。
- 若者とおじーおばーが関われる場所。伝統文化継承（三線・舞踊 etc）教室つくるとか。
- エイサー・PTCAで関わり
- 目に見えない文化をPTCAを通して継承していく！！
- 若者、高齢者、楽しんで集まる。
- 食文化も文化資源。食文化（長寿食）を体験できる。
- イベント広場。沖縄らしさを残し食文化を体験できる。
- 宜野湾市各地域の特性があるイベントの開催
- イベントが開催できる広場が必要。

⑥ 人材育成について

- 小中学生に地域学習機会を→将来の人づくり
- 後世に残すため、子供たちの人材育成。
- 学生WS（中学生）
- 人が壊す。それでいいのか…。学習することで行動になる。
- 平和学習できる施設が必要。
- ガイド養成（歴史文化を巡る）
- 地域ガイド養成し、エイサーを見れる。

⑦ その他まちづくりについて

- 高い建物は相応しくない！！
- 低層の住宅→まちづくり。
- 基地内の資源。低い建物のまち。月が美しい。
- 基地ゆえに残った資源＝自然林
- 現在、残っている緑地の保全は重要と考える。
- 時代にあわせた土地利用を検討すべき。
- 沖縄No.1の公園づくり
- かつての“まち”を復元してほしい！
- 観光客は気にしないほうが良い。いいまちには「人」が集まる。
- 返還前にまちづくり計画を決める必要が有！！
- 照明の無い、星が楽しめる場所をつくってほしい。
- 宜野湾市ならではの基地のまちづくりの知恵を活かす。
- 色々な意見を聞いて、全体の計画を考える必要有り。
- 基地周囲には野鳥がたくさん。
- 隣近所であいさつ→輪が広がる
- 世界の人々が集まる地域。
- エイサーサミット。各地域だけでなく交流。
- カデナカーニバルのように市民が見る機会を。

- 医療ツーリズム→もてなし。食文化。
- 伝統建築（赤瓦）などの活用。
- 風景づくり。かやぶき、赤瓦、バランスが必要。
- 琉球が感じられる（タイムスリップした）石垣。
- 沖縄らしい樹木の配置等も考える必要がある。

2) テーマB：環境共生とコミュニティ

① 基地内及び周辺自然環境等に関する現状認識

- 知らないが知りたい
- 入れる場所が限られる
- 基地内だから知りようがないが知人から聞いたことはある
- 屋敷林跡（旧集落）で畑をやっていた。
- 東側は手つかずの状態に残っている（神山）
- 起伏が激しい崖になっている
- 地下水が大雨の際にガマに集中する
- 大山で海水浴（約 60 年前）神山→伊佐を横断していた。
- 聖域であり、生活の場。
- ウフガー洗タリ（年一回入れる行事）
- 沖国北側のウフガー、うがみ、洗濯、泉
- うがみ、水源→大山へ
- 湧水あり。
- 生活に活用。
- うがんじゅが多くある。
- 大謝名 お墓ある（入れる）。

② 自然環境等をどのように保全・活用するのか

- 文化財の情報など跡地利用につなげる。
- 東側は緑が残っている（貴重な緑）。→残してほしい。
- 住宅地と自然の共存。水や緑を残すような用途地域にする。
- 玉泉洞よりも大きな資源となる？
- 宜野湾に自生する元からある植物を活かすとよい。
- テーマパークなどで洞穴を有効活用した体験型の観光促進。
- 東側の昔ながらの地形→規制をかけて人のための道を。
- 地下水を枯らさない（現在、活用している）。
- 集落にポンプアップして雑用水や生コン・サウナなどへの販売など。
- 大きな建物などにより水を枯らさない（規制など）。
- 緑はいっぱい残っている。
- 森→公園。木が少なくなった。
- 緑は残す方がいい。

- 極力、緑を残す。
- 自然らしさの考え。
- 水脈と建物の関係。
- 川筋に泉があつまっている。
- 水路と緑は一体として残す。並松街道→セット。

③ 将来、どのようなまちづくりをしていくべきか

- 想像もしないまち、人が住みやすいまちになって欲しい。
- 沖縄の良さが伝わるようなまちづくりを徹底的に行う。
- 緑が公園などできれいに育成できると良い。
- 緑と水を生かした公園づくり
- 沖縄らしい場所をつくることのできる唯一のチャンス。
- 並松を復元して緑と共生するようなまちづくり
- スポットの緑、人が集まるところをつくる。つなぐ。
- 県花など沖縄特有の植物があると良い。
- 周辺の密集した市街地、コミュニティを含めたまちの再編と発展。
- 自然を生かしたまちづくりを皆でやっていきたい。
- 沖縄の中心として平和を発信するまち。他にないもの（北谷・新都心）。
- 豊かな地形と緑（東側）→湧水にも良い影響
- 田んぼが残っているのは大山のみ→残す計画としてほしい。
- 空洞に地下水がいっぱい流れている。
- 窪地、地形などを活かしてまとまった緑を残して欲しい。
- 基地の跡としての遊歩道づくり。
- 人が集まれる公園（木がいっぱい）。
- いこいのパーク。
- 大きい広場→誰でも使える。
- まとまった大きい公園。
- 多世代集まる。
- 母さんが集まれる場。
- 自由に遊べる広場
- 勉強しながら図書館
- 図書館（森の中）
- 森カフェ
- 市民図書館
- 緑がある心が安らぐ
- 鳥の鳴き声で起きる
- 野鳥が集まれる。
- 緑と一緒に暮らす。
- 江東区近くに家庭菜園。

④ 住民活動について

- 郷友会でカー清掃している（年1回+α）
- 空地を活用した花植え運動（→コミュニティの活性化）
- ボランティアサークルで清掃活動
- 交差点毎リーダー
- 自治会・通りごとの清掃

⑤ 自然エネルギーの活用・環境共生のまちづくりについて

- 季節風のエネルギーの活用（風の通り道をつくる）
- 地形・地質の現状（戦前・戦後での変化）をしっかりと調査して計画に反映。
- 環境と観光の共生 若者の仕事をつくる。
- 地勢を活かした自然エネルギー。
- 観光としてもLRT・鉄道を促進。
- 車に乗らない社会（公共交通を利用）。
- 湧水を活かした環境学習
- 水の流れ、ホテル
- 住宅ごとに緑化率決める。
- 大山の湧水への配慮。
- 市内で環境学習の受け入れ先ない。

3) テーマC：国際交流・貢献と地域コミュニティ

① 人材育成について

- 人材育成が何よりも大事（観光協会の人材 中国への留学）
- 通訳・案内役の充実（人材育成）
- 英語が話せるようなまちづくり（外国人との交流）
- 国際色豊かな土地柄の活用（外国人との共存）
- 頭脳（科学技術等）を育てる環境づくり
- 留学生が活躍できる環境づくり
- 大学生の活用による環境整備
- 言語（ことば）が重要。文化・歴史の理解につながる。コミュニケーション。
- 英語を誰でも話せる教育が大事！
- 英語しか使えないゾーンをつくる。
- 言語教育（色々な言語）のための地域サークルの活動の場を設けてほしい。
- 沖縄の方言を伝えることも大事だが、英語も大事。
- 言語は習っても常に使う場所も必要。部分的に英語しか使えない場所をつくることも必要
- 英語のカリキュラムを変えないと駄目！

② 交通機能の充実について

- 交通の充実による交流促進

- 公共交通（鉄軌道）の整備
- 渋滞の解消→公共交通の充実
- 幹線道路・駐車場の確保

③ 沖縄らしさについて

- 伝統的景観の公共施設や住まいの整備
- 沖縄らしさ、赤瓦の風景、重箱料理体験
- 沖縄の文化を体験できる
- 体験型（歴史文化）イベント
- 昔の建物・産業（サトウキビ）の再生
- 自然・集落景観の保全
- 沖縄の自然環境の活用
- 嘉数公園や洞穴等資源の活用
- あえて国際交流のために用意するのではなく、ありのままの文化・歴史を見聞きしていただくべき。
- 沖縄らしい赤瓦家屋が無い。もっと残す努力が必要。

④ 食文化について

- 古民家でのリーズナブルな郷土料理（沖縄そば・チャンプルー）
- 日本食（郷土料理）中心の飲食
- 外国人が日常的に食べるものも必要
- 重箱料理体験

⑤ イベントや交流空間について

- 新住民（外国人含む）のコミュニティ形成が課題
- いろいろな国の人が交流できる場所
- 地域コミュニティの核となるような公園
- 公園+保育+高齢者＝世代間交流ができるまち
- 大規模公園を核とした交流
- イベントができる公共空間
- 緑（自然・森）を活かした拠点
- シンボルとなる施設
- ディズニーランドのようなテーマパーク
- カジノによる集客
- 人と交流、文化・歴史体験ができることで外国の方をもてなせる環境づくり
- まちぐわー（公設市場）は交流・体験型の観光にシフトしてきている。ハードよりもソフト的な対応が大事。
- 文化・風土・歴史を大事にしたコミュニティづくりが世界交流受け入れにもつながる
- 世界的なスポーツ合宿の拠点として
- 空手ネットワークの活用（武道館等）
- ウチナンチュ大会の誘致

- イベント（世界的フェスティバル）を開催するような取り組み、空間が必要。「世界のウチナンチュ大会」のようなもの
- お祭りには人を呼び込む魅力がある。仕掛けとして重要。
- 祭りの出演者となり得る人材育成（個人・組織）
- 外国居住者（市内に住む）の活用を！
- 音楽、動物は世界共通。世界が一つになれるテーマ性が必要か。

⑥ その他

- アジアの懸け橋となるまちづくり
- 那覇から北部間の立ち寄りしたくなるまち
- 平たい・住みたいまち
- 早めの準備が必要
- 返還を踏まえた国際環境整備のプログラム
- 並松を中心とした緑の整備
- 並松街道は人を中心とした整備
- 医療機関（急病に安心できる環境）
- 外国人のためのホテル・飲食の充実
- アワセ（イオンモール）のような外国人を呼べる施設
- 「アジア」安心感を感じる。沖縄に来られる方に安心感を提供できれば…。
- 沖縄が平和なら、世界が平和になる。
- 宜野湾にはホテルが少ない。船での来客が増えていることもあり、集客力のある宿泊機能がいる。

(7) ワークショップ講評

上江洲純子准教授（沖縄国際大学）

皆さんこんにちは、沖縄国際大学地域行政学科の上江洲といいます。皆さんが限られた時間の中ではありますけれども、生き生きと議論されている様子を周りで、楽しく、拝見、拝聴させていただきました。本来であれば、私もどこかのテーブルに参加したかったのですが、今日、講評という役割を仰せ付かったので、各テーブル、それぞれまんべんなく周って、皆様のお話しにちょっとずつ耳を傾けながら過ごしていた次第です。本日は、沖縄国際大学の地域行政学科の学生も複数参加をしております。学生たちにもこのような機会を与えて下さってありがとうございました。簡単ではありますがありますけれども、講評ということですので、今日の振り返りというのをしてみたいと思います。

このワークショップ、実は初めての試みなので、次につながるかどうかというのが、まず一つ。私自身は、まず二つの成果があるのではないかと見守っていました。一つは、テーブルを見回してみてください。多世代というキーワードが先ほども出ましたけれども、多世代の方々が同じテーマについて、こんなに熱く語り合える、こういう多世代の交流が実現したこと。そしてもう一つは、各テーブルの皆さんを周って聞いていると必ず「過去」、昔、普天間はどうだったというお話。普天間基地のこの辺りは、どうだったよ、という昔の記憶の確認、そして検証というのが各テーブル行われていました。さらにそのあと、「今」、どういうことが問題になっている。そして、「今」何ができるのか、という現在のこの話を各テーブル、話をされていました。そしてさらに、もちろんこのワークショップのテーマである、今後、新しいコミュニティをどうすべきかという、そういう話につながる「未来」の話。「過去」、「現在」、「未来」の話というのを皆さん知らず知らずのうちにされて、テーブルマスターの技術かも知れませんが、さすがだなと思いながら聞いておりました。この二つの成果が、このワークショップの2回目が開かれるかどうかの試金石になるかなと思っています。

そして、今回、3つのテーマが指定されていましたが、まず、最初のAテーブル。Aテーブルの歴史・文化というお話。ここでは、本当に色々な文化・歴史の掘り起こしという話が、地域の先輩方からお話をされて、若者たちにその知識というのが継承されていく様子が見て取れました。そして地域資源の中でも、よくキーワードとして出ていたのが、「並松街道」です。これに関しては、これから取り組みを始めようというような、「現在」の、そして「未来」につなげていこうというような話も出ていました。非常に参考になる提言が色々出ていたかと思います。

そしてBのテーブルでは環境共生。これはおそらく、いろいろな方が、いろいろな目線で話ができるテーマだったのかなと、活発に意見が出ていたテーマだったかと思います。環境というと、今、緑が残っている地域としては、宜野湾では普天間の広大な基地の中に緑が残っているというのは航空写真からも明らかですね。そしてこの環境共生という取り組みの中で、基地の中の自然というのを活かさないかというお話が

各テーブルで出ていたのを印象的に覚えています。なので、基地の中の緑というのが、今後、どう活かされていくのかというのは、これから先、環境共生を考える上でも、非常に重要なことだと思います。そして「水」というキーワード。やはり宜野湾は水のまちですので、湧水についてコメントされる方がたくさんいらっしゃいました。さらに今回、あまり出てこないなと思っていたところに、「風」というキーワードも出てきました。高台にありますから、風というのは、やはり、キーワードの一つになるのではないかなと思って聞いていたので、これから先は「緑」、「水」そして「風」、もちろん「太陽」も含めてですね、これを未来の環境共生のまちに活かさないか、そういうことが提言として参考になるかと思っています。

そして、最後にC、国際交流というテーマ。実は私、3つのテーマのうちで、一番難しいテーマだ感じていました。テーブルマスターの方も苦労されたのではないかと思いますけれど、とっかかりとして、それぞれの交流体験を聞き出すというところから始めたり、色々、工夫をされていたのを覚えています。この国際交流のまとめのところで出てきた話というのは、実はA、B、各テーブルの歴史や文化、環境というのを活かした交流を実現しましょうというような、CがAとBをつないで、まとめる役割を実は、果たしているんだというのを、今日のテーブルマスターの報告を聞いていて感じたので、これからコミュニティというのを交流をキーワードにつくっていく時には、そこには交流と言いつつも、A、Bでテーマになった歴史・文化、それから環境というのが、必ず、大事なキーワードとして入ってくると感じています。今回は、20分、20分、20分ということでみんなが慌ただしく移動していたのを見ていて、まだまだ話したりないのだろうなと感じましたから、もちろん、ここで終わらせることはもったいないことだと思います。是非、ここで話せなかった人、今日、聞いた話、感じた事、そして話し足りなかったことを、お家に帰ってから、家の人、子供たち、そして友達に話すという事を、是非、実現してほしいなと感じています。

つたない講評となりましたけれども、今日のワークショップへの参加というのが、皆さんにとって、一つの経験値となれば、私もうれしく思います。ありがとうございました。

(8) アンケート結果まとめ

1) 歴史・文化資源と地域コミュニティについて

①地域での保全・活用及び地域性に関する意見

- 歴史・文化資源の活用は他地域との魅力の差別化につながる大きな要素だと思います。ただし、安易に保存するのではなく（モニュメントの設置や説明板の設置のみなど）、その文化資源をいかに活用してもらうか、また、地域の方々のより所として大切に保全してもらえるか。
- 歴史・文化資源を復元、活用して、芸能・行事を地域全体で行うことが大事。
- 地域住民や利用者となる人々への働きかけをセットで考えてほしいです。街の中で活かされる文化資源、地域の人々が受け継いでいく文化資源となって欲しいです。
- 地域性を活かしつつ、市としてのあるいは県としての統一した文化（エイサーとか）を形成する。
- 宜野湾市独特の文化や伝統を残す→宜野湾市ならではのものを（高い建物をなくす、低い建物を多く）

②歴史・文化の学習・継承に関する意見

- 洞くつやガマなどの自然物は歴史学習などに使用する。
- 世界や日本よりもまずは身近な歴史を知るべき。
- 沖縄の文化・歴史を次世代にもつなげて行くために、三線、舞踊、エイサーなどが学べるような教室があってほしい。
- 宜野湾市の歴史・文化資源をひとつにまとめた資料館をつくる。
- 現存している文化資源を傷つけることなく、そのままの形で今後残して行くためにも、多くの人にその歴史を知ってもらい、保全していくべきだと思います。
- 現在残っている文化財やカー等の役割や必要性が伝えていく為に、学習を強化する必要がある。沖縄独自の価値観で考えていくことが大切ではないか。
- 小学校など、学校施設と連携し、小さいころから文化、伝統にふれる機会を多くしていく。
- 宜野湾にはいくつかの大学があるので、その大学へ通う学生にも宜野湾市の歴史や文化を伝えきれたらいいなと思った。
- 普天間飛行場があったことを忘れない様なシンボルをつくる（一部に）
- 人材の育成をして、継続性を高める。
- 歴史・文化資源を残していく人材づくり。
- 大事な歴史を伝え、次世代が頑張れるつながりの場所づくり。
- 日本・沖縄の良さを伝えられる所があったらいいなと思います。
- しっかり次世代に継承していくための活動を個人だけでなく、自治会を通して行い、伝えていかなければならない。なぜこのような文化が沖縄にあるのか、その意味や役割も教えていく必要がある。
- 歴史をそのままにしてはいけない。誰かが次の世代に残して行かないといけない。

沖縄の貴重な資源の保存行為。

③観光資源としての活用に関する意見

- 基地内に残っている文化資源を保存する、そこで観光化していく。
- 昔ながらの地域の生活様式を再現し、観光化していく。
- 洞穴等観光化した公園、花木を植える。
- 琉球にタイムスリップしたような町になってほしい。沖縄の独特さが薄れている中に、琉球を感じられる空間をつくってほしい（石畳、赤瓦、etc...）

④コミュニティづくりに関する意見

- 現在残っている文化資源を活用したコミュニティづくり。
- 若者とおばーおじー世代の交流もできる（若者は情報が少ないから、分かりやすい一定地域にいろんな文化に触れる場所があると嬉しい）

⑤自然に関する意見

- 自然をなるべく残して町づくりと調和をはかる。
- 文化財を残しながら都市開発をする。星の見えるまちづくり。
- 歴史遺産や文化財等とからめて、星の楽しめる空間が作れるはず。そういう場所は、自治会などが大事にするし、子ども達にも伝え続けることができそうだ。広大な土地の中にわずかでもそういう場所を確保したならばよいなあ。今は宜野湾市の中で星の見えるところは皆無に等しい。基地の中はどうか？

⑥並松街道に関する意見

- 並松街道の復元は良。しかし、跡地にそのまま復元ではなく、一部でも構わない。
- 戦前の通り（なんまち）を思わせるもの。戦後の基地のあったまちを思わせるもの。それぞれが残され、活かされるまちであってほしい。
- 南北にじのーん並松街道をつくり、健康街道をつくる（ウォーキングコース）
- 宜野湾市のシンボルだった松並木（ナンマチ）は、ぜひ、何らかの形で復元したい。これが宜野湾市だという形がほしい。ただの街になってほしくない。

⑦公園整備に関する意見

- 集落跡を残しつつ、大きな公園を作ってほしい。
- カー等御願所を含むように大きな公園、散策道ができるといいと思います。
- 沖縄の昔等、食料理等も紹介できる大公園の中で施設等を考えてほしい。

⑧資源の復元に関する意見

- なくなった文化財の復元。
- 文化財の復元、中心にしたテーマパーク（パワーポイント）

⑨今後の課題に関する意見

- 歴史文化資源は大事にし、開発に際しては充分考慮すること。
- 各字（自治会）から歴史・文化等に残したいという願望はたくさんあると思うが、かぎりある面積をどう計画するのがネックになると思う。

⑩その他意見

- 洞穴の利用、松。
- 子ども達に地域の歴史・文化に誇れる地域をつくる。
- 文化資源を活用したまちづくりに反映してほしい。
- 食文化、空手など。
- 残したいと思う人は多いと思う。今生きている人、生活している人たちと共生できる残し方、地域や学校と協力して残すやり方が大事。
- 文化財のある地域に大きな駐車場をつくって、車の乗り降りの便をよくする。
- 地域の方も観光客にも街歩きのしやすいコースづくり。
- 広場を利用したイベントを世界規模で行う（エイサー、カチャーシー大会）
- 史跡など保存するだけでなく、アート、子ども達が遊べる場としての活用。
- まだまだ未調査の軒地洞跡の整備が必要。
- 宜野湾区の産泉や闘牛跡地等をぜひ残してほしい。
- 宜野湾郷友会のジオラマの展示場所。
- 美観地区（赤瓦など）の設定。

2) 環境共生と地域コミュニティについて

①自然環境の保全・活用に関する意見

- とってつけたような自然ではなく、地域に本来からあるような、自生しているものを活用した自然環境をつくり、保全してほしい。
- 地下水に考慮した開発。自然をつくるのではなく、残す。
- 地形をそのまま残す場所を決めておくことが大切だと思う（湧水や植栽につながる）
- 木や緑など残しながら基地跡の有効利用をしてほしい。
- 基地があったので、自然の森や木などがあった。その残った森など変えずに、人が集まる場所であってほしい。
- 利便性だけを求めるのは良くなく、環境保全が大事。
- 水資の確保できるコミュニティ。
- 水を枯らさない。
- 戦前からある自然を残して行くために、用途地域を特別に設けて、守る必要がある。
- 普天間跡地には、湧水も流れているとのことなので、ホテルなどを観光資源かつ環境資源として残せないかなと思いました。
- 貴重な自然を残していかないといけない。
- 那覇新都心や美浜とは違い、自然等を残すことが必要ではないか。
- 基地内に多くの自然が残っているので、それを壊さない様なまちづくりが大切だと思った。
- 基地の中に豊かな自然が残されており、大事にされなければならない。どんな大事な自然か？を調査することはとても大事で、大事さが認識されない限り残す意

味はうすい。

- 宜野湾市にもともとあった自然を活かす。（北部、中部、南部それぞれに独自の自然やそこで暮らす生物がいる）
- 自然文化を上手く利用する。
- 自然を活かし、沖縄らしさを残し、世界から注目されるようにしてほしい。

②緑地・緑化に関する意見

- 緑地の確保（水源）
- いかに緑地帯を残すか。
- 自然の緑を壊さないで、生活や暮らしの中に緑、菜園（野菜や花を植える）。
- 既存の緑地の保全。
- 現在、飛行場内にある緑を大切にし、開発する。
- 現在残されている緑を活用して街づくりをした方が良い。普天間飛行場には緑や水源がある。
- VR では、ハウオウボクの活用というものもあったが、那覇では数年に一度虫が大量発生し、枝の大規模な伐採が行われている。そういった事態も考慮して樹木の選定をしてほしい。

③環境共生に関する意見

- 現在ある環境と地域で、時代に合った環境を考える。
- 自然体の田、畑等を環境共生とどう位置するのが課題だと思う。
- 自然の現状把握によって、よりよい環境共生が可能。
- 丘から崖を抜け、海浜に潮干狩りに行っていたという人がいたが、自然との生活と密着できる空間を作してほしい。
- 建築物をどのくらいつくるのかが気になる。自然破壊に繋がらないか心配。
- 自然の共存。

④公園整備に関する意見

- 広大な公園を整備して集う、賑わう街にする。
- 街の中の公園などを使って、いつでも人との交流が良くなってほしい。
- 体験型学習ができる公園（森、花、つり）
- 緑を残した公園、広場、泉、並松（じのーん）の復元。
- 世代をこえた公園づくりをしてほしい。
- 森を残し公園をつくる。
- 木がこんもりとした広い公園も欲しいです。
- 幼い子も青年も老人も活用できるような大きい公園。

⑤公共交通に関する意見

- 路面電車を一周させる。
- マイカーを置いて、宜野湾市の新たなまちづくりでは鉄軌道や LRT などの公共交通機関の利用を推進すべき。プラス面として、自然保護になる、観光客がレンタカーなどを使わずにすむ、気軽に利用可！

- これだけの自然が集まっているから、車は通らないでほしい。路面電車を考えているみたいなので、それを利用したり、車利用を規制したりする。

⑥自然エネルギーに関する意見

- 自然との共生の大切さを感じた。風力発電、太陽光発電の設置を考える。
- 自然エネルギー（風力等）活用したまちづくり。
- 自然エネルギー、シンボルとなる施設をつくり、観光の目玉に！

⑦その他意見

- 火葬場を作ってください。
- 沖縄らしい赤瓦を、住宅をつくる際に何割か取り入れる（緑地も含む（庭等）
- 洞穴を利用したテーマパーク。
- 津波や災害時の避難場所の拠点、ヘリポート。
- 基地内の遺産は、できるだけ残すなどの努力をしてほしい。
- 野鳥や生物観察できるコミュニティ森や自然を活用したカフェ図書館みたいなもの。
- 色々な世代に適した図書館が欲しい。
- リラックスできて、学生が勉強できる場所がほしい。森カフェ。
- まちの中にゴミ箱設置。

3) 国際交流・貢献と地域コミュニティについて

①交流拠点に関する意見

- 自然との共生の大切さを感じた。風力発電、太陽光発電の設置を考える。
- 自然エネルギー（風力等）活用したまちづくり。
- 自然エネルギー、シンボルとなる施設をつくり、観光の目玉に！

②外国人対応に関する意見

- 観光地には多くの外国人が訪れているが、外国人の対応がまだまだ出来ていないので、大学の国際文化学科などと協力して、その観光地についての説明を翻訳していけたらいいと思った。
- 必要最低限の英語を喋れるスキルが1人1人に必要だと思います。
- 外国人観光客、外国人移住者も増えているので、おもてなしを行う。
- 受け入れる地域での語学研修でおもてなし！
- 外国の人も気軽に遊びに来られるような集会所、多言語案内所。いろんなサービスが受けられたらよいのでは・・・。
- 多くの外国の方が訪れることを想定して、マナーや文化の違いが一番の問題だと思うので、分かりやすく絵や多言語で説明した看板やパンフレットを作ることが必要だと思います。
- 観光客の来訪を歓迎・交流する。

③人材育成に関する意見

- 人材育成に力を入れ、20年後の外国人観光に対応。
- 人材育成をして外国語ができるようにする。
- 外国語を学べる研修センター。
- 人材育成の場を設け、国際交流に役立ててほしい。
- 人材育成。沖縄としての国際交流の場。
- これからは外国語を習得するのが大切ですので、跡地に英語しか使わない英語村を作り、英語を話せる市民・県民を増やす。
- 世界の共通語、英語を誰でも話せるように、原語を英語に。
- いつでも外国の人との話ができるように、外国語の一つでも話せたらいいと思います。
- これからの若者（子供等）には、英語教育を徹底し、県民全体が外国人とも話せるようにする。
- 外国の人と言葉が気軽に通う人材育成。
- 人材育成をし、その人たちが活躍できる場所を作って欲しい。
- 英語の向上。
- 小学校から続けているカリキュラムの見直し。
- 英語圏のエリアをつくる。
- 英語教育、沖縄文化の発展。

④施設整備に関する意見

- 世界の文化伝統祭で舞台発表できる場としてのコンベンション。
- 世界的イベントができる屋外劇場。
- コミュニティセンター。
- 文化交流できるシンボリックな建物。
- アジアの拠点になるような教育施設をつくり、交流の場を作っていければいいと思います。
- 待機児童の解消のためにも、保育所などを多く建設すると良い。
- 宜野湾は特に目立ったものがなくて、観光客も素通りしてしまいがちなので、そこに留まる何かの強力な施設をつくってほしい。
- 自然の中で高齢者の方々と子ども達が共に交流することが出来るような施設が必要。
- 建物だけではなくて、文化の発信もいい。（体験型施設）

⑤地域特性を活かしたまちづくりに関する意見

- 外にない宜野湾だけのもので・・・（上地空手、田芋）。
- サッカースタジアムの建設により、海外クラブチームを招き入れる。すると外国人客が増えるので、周辺の街並みは赤瓦など、沖縄を感じられる外国人も魅了するような街づくり。
- 沖縄の中でも他の市町村にない特徴をもったまちづくりが大切だと思う。
- もともと宜野湾はアジア系やアメリカ人の住民も多いので、そのまま地域の一員として住みやすい国際色豊かなまち。
- 沖縄らしさを活かしつつ、誰もが宜野湾に来たくなる街になってほしい。
- 琉球文化の薫る街並みと、食文化を活かして。
- 沖縄の踊り、エイサーをいつでも見られるようにしてほしい。
- 沖縄らしさが伝わるような土地にしたい。
- 昔の宜野湾市を復元しながら、赤瓦屋根の家があったり、沖縄料理が食べられたり、習えたり、そういう空間ができるといい。
- まちの魅力を高めるためには公共施設や商業施設も必要だと思いますが、第一に宜野湾市らしい魅力を感じられることがまちの魅力の核であってほしいです。宜野湾市らしい文化・環境がある中に生活に必要な施設もあるというふうに感じられるまちになってほしいです。
- 那覇市の商店街のように、体験・交流型の観光を取り入れてみるのはどうか。例えば、観光客に沖縄の伝統文化、食べ物等をしてもらうために、「重箱」や沖縄の伝統料理を一生に作り、説明を交え、滞在型の宜野湾でしかできない体験型をつくり、ぎのわんファンをつくるのはどうか。

⑥体験型観光に関する意見

- 見るだけの観光ではなくて、地域の人たちとかかわれる体験的な観光スポットをつくる。その方が学びもあって思い出深くなる。充実、友達もできる。イベント開催。スポーツをしたり。
- 医療（人間ドック等）の体験。
- 滞在中に沖縄食文化の体験。

⑦その他意見

- グローバル社会、とりわけ中国、台湾の近い国との交流づくりをすすめてほしい。
- 那覇より 30 分という立地ですので、沖縄文化の中心的活动場所（県外の方との交流）
- テーマパークはいらない。
- 地域医療や高度な医療等が充実し、町が素晴らしいものになれば、これは自然に国際交流に貢献できることになるし、国際交流を目的として地域整備をするというのは逆の方向かなと思う。
- 食文化とホテルの位置づけ。

3. 今後の情報発信策の具体化

今まであまり認知されていない層にも興味関心をもってもらい、地権者・市民・県民や県内外・国外の企業等幅広い層への情報発信を行う。

(1) ホームページコンテンツの整備更新

中間とりまとめを基本的なベースとし、跡地利用計画の進行している様子を県内外、幅広い層にわかりやすく伝える。

1) 旧のホームページの分析

1 ページで構成されており、上から動画、PDF、県民の声、普天間跡地利用計画提案受賞作品紹介、関連リンクの構成となっており、動画再生やPDFをダウンロードしないと記載されている中身がわからない構成となっている。また、1 ページに全ての項目を詰め込んでいるため、利用者にとって分かりづらい構成となっている。

【現状のホームページ】



【コンテンツ内容】

◆動画で紹介

- ・中間とりまとめ全編
- ・チャプター(章)ごとの動画、パンフレットダウンロード(PDF)

◆パンフレット

- ・全編のダウンロード(PDF)

◆関連サイトへのリンク

- ◆跡地利用計画提案受賞作品(PDF)

◆関係リンク

- ・沖縄県
- ・全体計画の中間とりまとめ
- ・宜野湾市
- ・沖縄 21 世紀ビジョン

2) 制作上の視点・留意点

制作上のポイントとして全体のページ構成は、普天間未来予想図パンフレットをベースとして構成し、「基地が返還される」「まちがつながる」「緑の中のまちをつくる」「人々が集まるまちができる」項目ではチャプター別の動画と図面でわかりやすく説明、動画チャンネル「未来のまちイメージVR」では、制作したPVをイメージのポイントと合わせて紹介、「中南部都市圏駐留軍用地跡地利用広域構想」では駐留軍用地跡地の他の事例や課題の提示をし、「跡地利用に伴う経済効果」では駐留軍用地跡地利用の那覇新都心地区の実例と普天間の予測について説明、また「県民の声」では、過去のコンテストの実績や外部組織の紹介をし、「関連リンク」では、県の関連ページや市へのリンクを紹介する。

また、各ページへの移行は、共通のグローバルナビゲーションにより各ページへスムーズに移行できるようにする。デザインについて、色彩は夢のある沖縄らしいカラフルなイメージで作成。

【新ホームページ：共通グローバルナビゲーション】



【新ホームページ：ページ構成案】



【新ホームページ：TOPページ構成案】

各コンテンツの役割と概要

←■ヘッダ（共通）

←■各ページへの直接リンクのタグ（共通）

←■トップ・トピックス
バナーと動画（静止画）が順に変わり、トピックスを紹介。（随時更新可能）
左の画像が順に変わると同時に、右の該当バナーの矢印が消す。

←■お知らせ
跡地利用に関係する種々のお知らせを表示（随時更新可能）

←■主旨の紹介

←■各ページへの誘導サムネイル
各ページで見ることができる動画キャプチャ画像と概要テキスト

←■リンクボタン集

トップページ

【新ホームページ：各ページ構成案】

各コンテンツの役割と概要

←■ヘッダ（共通）

←■各ページへの直接リンクのタグ（共通）

←■動画再生とキャッチフレーズ

←■内容紹介（パンフレットをベースに）

←■関係リンク
各ページの項目に関係するサイトにリンク

個別ページ（例）

3) 沖縄県サーバーへの移行

平成 25 年度に制作した旧ホームページについては、セキュリティの脆弱性等の課題がある。

これらを改善するために、県のサーバー内にHPデータを移行させることにより、セキュリティの対策等の問題が解決することが可能となる。

4) 新ホームページデータ

【TOPページ】

動く! 普天間飛行場跡地 未来予想図

みんなで考え、動き出している計画の様子を動画でご覧いただけるサイトです

TOP ページ | 基地が返還される | まちがつながる | 緑の中のまちをつくる | 人々が集まるまちができる | 未来のまちイメージ VR | 県民の声 | 関連リンク

中南部都市圏駐留軍用地跡地利用広域構想 | 跡地利用に伴う経済効果

トピックス | ご覧になりたいトピックをクリック!

基地が返還される
跡地を利用した「まちづくり」がはじまっています。

まちがつながる
普天間飛行場跡地がつかえる大規模都市になります。

緑の中のまちをつくる
自然や歴史・文化を活かしたまち

人々が集まるまちができる
沖縄らしさと国際的な新しいまちの融合

未来のまちイメージ VR
中央エリアの巻 公開中!
動画で見る 普天間飛行場跡地 未来予想図

お知らせ

■2016.4.1 普天間飛行場跡地 未来予想図サイトがリニューアルしました。

1996年「沖縄に関する特別委員会」SACOの最終報告で
普天間飛行場の全面返還が合意されました。

「普天間飛行場の跡地」利用にむけて…沖縄県と宜野湾市は共同で取り組みをすすめ、
これまで学識経験者や地権者の皆さん、県民・市民の皆さん、関係機関等と一緒に
どうしていくかを考えてきました。

そして、2013年3月
これまでに集めた情報や調査結果を「全体計画の中間取りまとめ」として発表しました。
このサイトでは、この中間取りまとめの概要をわかりやすくイメージでご紹介いたします。

計画のポイント「全体計画の中間取りまとめ」から

基地が返還される
既にある基地返還跡地で進められている新しいまちの経済効果、今後返還が予定されている跡地に期待されることをご観いただけます。

まちがつながる
東西・南北の道路、鉄道、水と線一いまで閉ざされていた跡地が緑々につながり、まちになる計画をご観いただけます。

緑の中のまちをつくる
普天間飛行場跡地に残っている自然や歴史・文化の資源を活かした「緑の中のまち」の計画をご観いただけます。

人々が集まるまちができる
どんなまちができるのか、ゾーニングの計画案のキーワードとみんなが考えたまちのスケッチをご観いただけます。

未来のまちイメージ VR アニメーション
返還後の跡地利用を早期に実現するためには、返還前の早い段階から跡地利用計画を準備しておく必要があります。そこで、文化財や自然環境の文献調査・視察調査、有識者からの意見も伺いながら、跡地利用計画の検討を進め、まちのイメージをCGアニメーションで描いてみました。

関連リンク

沖縄県「基地」 | 沖縄県「普天間飛行場の跡地利用に向けた「全体計画の中間取りまとめ」」 | 宜野湾市「市政情報・基地関連情報」

沖縄 21 世紀ビジョン

Copyright © 普天間飛行場跡地 未来予想図 All Rights Reserved

【基地が返還される】

動く！ 普天間 飛越地跡地 未来予想図

みんなで考え、動き出している計画の様子を動画でご覧いただけるサイトです

TOP
ページ

基地が
返還される

まちが
つながる

緑の中のまち
をつくる

人々が集まる
まちができる

未来のまち
イメージ VR

県民の声

関連リンク

中南部都市圏駐留軍用地跡地利用広域構想

跡地利用に伴う経済効果

基地が返還される

沖縄中南部では、跡地を利用した“まちづくり”が始まっています。

私たちのまちが
変わるんだ！



基地が返還される

すでに開発された返還跡地



北谷跡地
北谷跡地公園・駅前
1967年返還



北谷跡地公園
1967年返還



北谷跡地公園
1967年返還



北谷跡地公園
1967年返還



北谷跡地公園
1967年返還

沖縄中南部でこれから返還が予定されている跡地
中南部都市圏駐留軍用地跡地利用広域構想



牧野野島跡地
（約 16ha）
キャンプ海軍跡地
（約 68ha）
キャンプ陸軍跡地
（約 15.2ha）
普天間飛行場跡地
（約 487ha）
牧港地区跡地
（約 274ha）
普天間基地跡地
（約 56ha）

まちが生まれつながり……
都市としてつながります！

大きな経済効果が生まれています

詳しくは、「中南部都市圏駐留軍用地跡地利用広域構想」及び「跡地利用に伴う経済効果」のページをご覧ください。

つづ

まちが
つながる

みる

関連リンク

沖縄県「基地」

沖縄県「普天間飛行場の跡地利用に向けた“全体計画の中長期ビジョン”」

宜野湾市「市街地・基地関連情報」

「沖縄」観光パンフレット

「沖縄」観光パンフレット

「沖縄」観光パンフレット

Copyright © 普天間飛行場跡地利用広域構想 普天間飛行場跡地利用広域構想 普天間飛行場跡地利用広域構想 All Rights Reserved

【緑の中のまちをつくる】

動く！ 普天間 飛行場跡地 未来予想図

みんなで考え、動き出している計画の様子を動画でご覧いただけるサイトです

TOPページ
基地が変遷される
まちが育たれる
緑の中のまちをつくる
人々が集まるまちがでる
未来のまち イメージ VR
飛地の歴史
関連リンク

中南部都市圏駐留軍用地跡地利用広域構想 跡地利用に伴う経済効果

「緑の中のまち」をつくる

普天間飛行場跡地は自然と歴史・文化の資源が残っているところだから…



世界に誇れるまちになるといいね！

緑の中のまちをつくる

ご先祖様も喜んでくれるまちがいね！



普天間飛行場跡地は、自然や歴史・文化が残っている土地だから、この道をよく調べて…



● 戦時中の飛行場跡地
● 戦後の緑地



自然に育つ緑地



● 戦時中の飛行場跡地
● 戦後の緑地



自然に育つ緑地



● 戦時中の飛行場跡地
● 戦後の緑地



自然に育つ緑地



● 戦時中の飛行場跡地
● 戦後の緑地

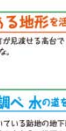


自然に育つ緑地

これらがひとつになって「特色のある環境」をうみだします

「緑の中のまち」は…

- 再生可能なエネルギーを取り入れた 環境に配慮したまち
- 環境保全と開発が共存する 持続可能な都市
- 自然力を高め 人々が未来にまなびをつなげる



つづいて

人々が集まるまちがでる

をみる

関連リンク

沖縄県「基地」

沖縄県「普天間飛行場跡地利用」向け「普天間の中核的取り組み」

宜野湾市「市政情報・基地関連情報」

沖縄県「基地」

沖縄県「普天間飛行場跡地利用」向け「普天間の中核的取り組み」

宜野湾市「市政情報・基地関連情報」

Copyright © 2014 宜野湾市 全著作権所有 All Rights Reserved

【まちがつながる】

動く！

普天間 飛行場跡地

未来予想図

みんなで考え、動き出している計画の様子を動画でご覧いただけるサイトです

TOP
ページ

基地が
活用される

まちが
つながる

緑の中のまち
をつくる

人々が集まる
まちがでせる

未来のまち
イメージ VR

県民の声

関連リンク

中南部都市圏駐留軍用地跡地利用広域構想

跡地利用に伴う経済効果

まちがつながる

宜野湾を中軸に都市がつながると…高度な都市機能を持つ **100万都市** になります

大きなまちに
なるんだねえ！



まちがつながる

人が集まる
まちだね！！



普天間飛行場跡地がつながると 大きな都市になります

道がつながる



水と緑がながる



地球全体がひとつの
都市になります



コンベンション 機能の拡大



那覇空港
第2滑走路



那覇市



関連リンク

沖縄県（基地）

沖縄県庁（普天間飛行場の跡地利用に果たした「全体計画の中核的役割」との）

宜野湾市（市政機能・基地関連機能）

沖縄県庁（普天間飛行場の跡地利用に果たした「全体計画の中核的役割」との）

Copyright © 普天間飛行場跡地 普天間飛行場跡地 普天間飛行場跡地 All Rights Reserved

【人々が集まるまちができる】

動く！ 普天間 飛越夢跡地 未来予想図

みんなで考え、動き出している計画の様子を動画でご覧いただけるサイトです

TOP
ページ

まちが
広まる

緑の中のまち
をつくる

人々が集まる
まちができる

未来のまち
イメージ VR

県民の暮らし
を応援

関連リンク

中南部都市圏駐留雇用土地利用広域構想

土地利用に伴う経済効果

人々が集まるまちができる



私たちが
おこなっている
こと
は
いろいろな
人々が
集まる
こと
です



沖縄らしい「緑・水・歴史・文化」と調和的な「新しい都市」をひとつにしました

まちが広がる（緑）

緑の中のまちづくり

この動画は、ひとつの街です

「普天間飛行場の土地利用計画案に向けた全体計画の中間取りまとめ」（関係委員会）から



産業

沖縄の
自立の発展につながる
振興拠点ゾーン

高専・大学・研究機関・企業・官公庁・民間企業・金融機関・文化施設・スポーツ・エンタテインメント・ホテル・リゾート・コンベンション

機能

人が集う 快適で
魅力的な都市をつくる

都市拠点ゾーン

行政・教育・文化
商業・福祉 など

生活

沖縄の気候風土に合った
商業と生活環境をつくる

住居ゾーン

「旧集落」の空間再生

観光

自然・文化・歴史・景観・食文化・スポーツ・エンタテインメント・ホテル・リゾート・コンベンション

商業

人が集う 快適で
魅力的な都市をつくる

都市拠点ゾーン

行政・教育・文化
商業・福祉 など

生活

沖縄の気候風土に合った
商業と生活環境をつくる

住居ゾーン

「旧集落」の空間再生

産業

沖縄の
自立の発展につながる
振興拠点ゾーン

高専・大学・研究機関・企業・官公庁・民間企業・金融機関・文化施設・スポーツ・エンタテインメント・ホテル・リゾート・コンベンション

機能

人が集う 快適で
魅力的な都市をつくる

都市拠点ゾーン

行政・教育・文化
商業・福祉 など

生活

沖縄の気候風土に合った
商業と生活環境をつくる

住居ゾーン

「旧集落」の空間再生

観光

自然・文化・歴史・景観・食文化・スポーツ・エンタテインメント・ホテル・リゾート・コンベンション

商業

人が集う 快適で
魅力的な都市をつくる

都市拠点ゾーン

行政・教育・文化
商業・福祉 など

生活

沖縄の気候風土に合った
商業と生活環境をつくる

住居ゾーン

「旧集落」の空間再生

産業

沖縄の
自立の発展につながる
振興拠点ゾーン

高専・大学・研究機関・企業・官公庁・民間企業・金融機関・文化施設・スポーツ・エンタテインメント・ホテル・リゾート・コンベンション

機能

人が集う 快適で
魅力的な都市をつくる

都市拠点ゾーン

行政・教育・文化
商業・福祉 など

生活

沖縄の気候風土に合った
商業と生活環境をつくる

住居ゾーン

「旧集落」の空間再生

観光

自然・文化・歴史・景観・食文化・スポーツ・エンタテインメント・ホテル・リゾート・コンベンション

商業

人が集う 快適で
魅力的な都市をつくる

都市拠点ゾーン

行政・教育・文化
商業・福祉 など

生活

沖縄の気候風土に合った
商業と生活環境をつくる

住居ゾーン

「旧集落」の空間再生

産業

沖縄の
自立の発展につながる
振興拠点ゾーン

高専・大学・研究機関・企業・官公庁・民間企業・金融機関・文化施設・スポーツ・エンタテインメント・ホテル・リゾート・コンベンション

機能

人が集う 快適で
魅力的な都市をつくる

都市拠点ゾーン

行政・教育・文化
商業・福祉 など

生活

沖縄の気候風土に合った
商業と生活環境をつくる

住居ゾーン

「旧集落」の空間再生

観光

自然・文化・歴史・景観・食文化・スポーツ・エンタテインメント・ホテル・リゾート・コンベンション

商業

人が集う 快適で
魅力的な都市をつくる

都市拠点ゾーン

行政・教育・文化
商業・福祉 など

生活

沖縄の気候風土に合った
商業と生活環境をつくる

住居ゾーン

「旧集落」の空間再生

産業

沖縄の
自立の発展につながる
振興拠点ゾーン

高専・大学・研究機関・企業・官公庁・民間企業・金融機関・文化施設・スポーツ・エンタテインメント・ホテル・リゾート・コンベンション

機能

人が集う 快適で
魅力的な都市をつくる

都市拠点ゾーン

行政・教育・文化
商業・福祉 など

生活

沖縄の気候風土に合った
商業と生活環境をつくる

住居ゾーン

「旧集落」の空間再生

観光

自然・文化・歴史・景観・食文化・スポーツ・エンタテインメント・ホテル・リゾート・コンベンション

商業

人が集う 快適で
魅力的な都市をつくる

都市拠点ゾーン

行政・教育・文化
商業・福祉 など

生活

沖縄の気候風土に合った
商業と生活環境をつくる

住居ゾーン

「旧集落」の空間再生

産業

沖縄の
自立の発展につながる
振興拠点ゾーン

高専・大学・研究機関・企業・官公庁・民間企業・金融機関・文化施設・スポーツ・エンタテインメント・ホテル・リゾート・コンベンション

機能

人が集う 快適で
魅力的な都市をつくる

都市拠点ゾーン

行政・教育・文化
商業・福祉 など

生活

沖縄の気候風土に合った
商業と生活環境をつくる

住居ゾーン

「旧集落」の空間再生

観光

自然・文化・歴史・景観・食文化・スポーツ・エンタテインメント・ホテル・リゾート・コンベンション

商業

人が集う 快適で
魅力的な都市をつくる

都市拠点ゾーン

行政・教育・文化
商業・福祉 など

生活

沖縄の気候風土に合った
商業と生活環境をつくる

住居ゾーン

「旧集落」の空間再生

【未来のまちイメージVR】

動く！ 普天間 飛行場跡地 未来予想図

みんなで考え、動き出している計画の様子を動画でご覧いただけるサイトです

TOP ページ 基地が返還される まちが つながる 緑の中のまちをつくる 人々が集まるまちができる 未来のまちイメージVR 県民の声 関連リンク

中南部都市圏駐留軍用地跡地利用広域構想 跡地利用に伴う経済効果

未来のまちイメージVR

未来のまちをイメージしてみました



普天間未来予想図 VR版 vol.01 中央エリア

近未来の跡地利用や環境に実現するためには、近未来のまちの顔から跡地利用の計画を立てる必要があります。そこで、文化財や自然環境の保全、防災、防災、防災からご意見いただきながら、跡地利用の計画の検討を進め、まちのイメージをイメージしてみました。まずは、新たな跡地利用の計画となる中南部都市圏のイメージ作りを始め、緑、緑、緑の跡地利用と連携した未来のまち、近未来のまちのイメージが実現される未来のまちへと進みます。今後も、県民や関係者の皆様はもとより、県内外の多くの方々からのご意見を伺いながら、計画内容をより具体化してまいりたいと考えています。

横断中央エリアのイメージVR版をご覧ください。

イメージのポイント

沖縄の風土 (自然環境と文化財)
跡地に緑を育てる。風土・風土にもふさわしく、そんな自然の恵みを、自然環境と文化財として活用することをイメージしてあります。

沖縄らしさ (歴史と文化の継承)
歴史街道を再現すると歴史が感じられます。かつて存在したエリアには、沖縄らしい風景が広がる住宅地をイメージしてあります。

沖縄風土の文化 (伝統文化・産業振興)
大勢の人の集まるイベント、国際的な国際的なイベントの開催が、沖縄の自立発展につながることをイメージしてあります。

自然環境の活用 (環境と産業の活用)
自然環境を活かした「金エネの活用」を実現し、沖縄の自然環境と産業、自然環境と産業の活用をイメージしてあります。

関連リンク

沖縄県 | 基地 | 沖縄県 | 普天間飛行場の跡地利用に向けた「全体計画の中間取りまとめ」 | 宜野湾市 | 市政情報・基地関連情報 | 沖縄 21 世紀ビジョン

Copyright © 普天間飛行場跡地 未来予想図 All Rights Reserved

【県民の声】

動く！ 普天間 飛行場跡地 未来予想図

みんなで考え、動き出している計画の様子を動画でご覧いただけるサイトです

TOP ページ 基地が返還される まちが つながる 緑の中のまちをつくる 人々が集まるまちができる 未来のまちイメージVR 県民の声 関連リンク

中南部都市圏駐留軍用地跡地利用広域構想 跡地利用に伴う経済効果

県民の声

私たちも考えています



普天間飛行場の跡地を考える 若手の会 (地産地消推進)



ねたてのまちベースミーティング (宜野湾市民協会の)

作品発表

2010年 米軍基地返還跡地への夢 絵画コンクール 受賞作品

基地跡地への「夢」をテーマに、県内の小中学生から作品を募集し、1,001作品(小学生の部142作品、中学生の部142作品)の応募がありました。この展覧会に選ばれた作品の数々には、沖縄の自然、伝統文化、モーターや自動車、テーマパーク、エコファーム、子供達の「夢」が描きこまれており、どの作品も基地返還後の未来の沖縄に対する熱い思い、いきいきとしたエネルギー溢れ、大変素晴らしいものでした。

クリップすると受賞作品を閲覧いただけます

沖縄の新たな発展につなげる 大規模基地返還跡地利用計画提案コンペ 受賞作品

最優秀賞
万葉集の巻(くに) 最優秀賞の受賞 ともみ グリーンリノベーション21

優秀賞
アジアの成長を促す、地産地消を推進する沖縄観光産業 開発戦略計画 国公立大学 国際観光研究科

佳作
沖縄が目指すべき「アジアに合わせた、経済的発展」を実現する100の提案 国公立大学 国際観光研究科

関連リンク

沖縄県 | 基地 | 沖縄県 | 普天間飛行場の跡地利用に向けた「全体計画の中間取りまとめ」 | 宜野湾市 | 市政情報・基地関連情報 | 沖縄 21 世紀ビジョン

Copyright © 普天間飛行場跡地 未来予想図 All Rights Reserved

【関連リンク】

動く！ 普天間 飛行場跡地 未来予想図

みんなで考え、動き出している計画の様子を動画でご覧いただけるサイトです

TOP ページ 基地が返還される まちが つながる 緑の中のまちをつくる 人々が集まるまちができる 未来のまちイメージVR 県民の声 関連リンク

中南部都市圏駐留軍用地跡地利用広域構想 跡地利用に伴う経済効果

関連リンク

【沖縄県】
・基地利用
http://www.pref.okinawa.jp/site/kichil/index.html
・跡地利用
http://www.pref.okinawa.jp/site/kichil/atochil/index.html
・普天間問題
http://www.pref.okinawa.jp/site/kichil/futenma/index.html
・中南部都市圏駐留軍用地跡地利用広域構想
http://www.pref.okinawa.jp/site/kichil/kouchou/atochil/kouchoukou.html

【宜野湾市】
・基地関連情報
http://www.city.ginowan.okinawa.jp/isei/base/

【外部リンク】
・ねたてのまちベースミーティング
http://www.city.ginowan.okinawa.jp/isei/base/02/29127_507.html
・普天間飛行場の跡地を考える若手の会
http://www.city.ginowan.okinawa.jp/isei/base/02/873_510.html

関連リンク

沖縄県 | 基地 | 沖縄県 | 普天間飛行場の跡地利用に向けた「全体計画の中間取りまとめ」 | 宜野湾市 | 市政情報・基地関連情報 | 沖縄 21 世紀ビジョン

Copyright © 普天間飛行場跡地 未来予想図 All Rights Reserved

【中南部都市圏駐留軍用地跡地利用広域構想】



【跡地利用に伴う経済効果】



5) バナー制作



6) 新ホームページへの誘導ルート

●沖縄県

【旧ルート】

ホームページへの誘導ルートが1つしか無く、分かりづらい位置にある。

◆駐留軍用地跡地対策沖縄県本部 (沖縄県企画部 企画調整課 跡地利用推進班)

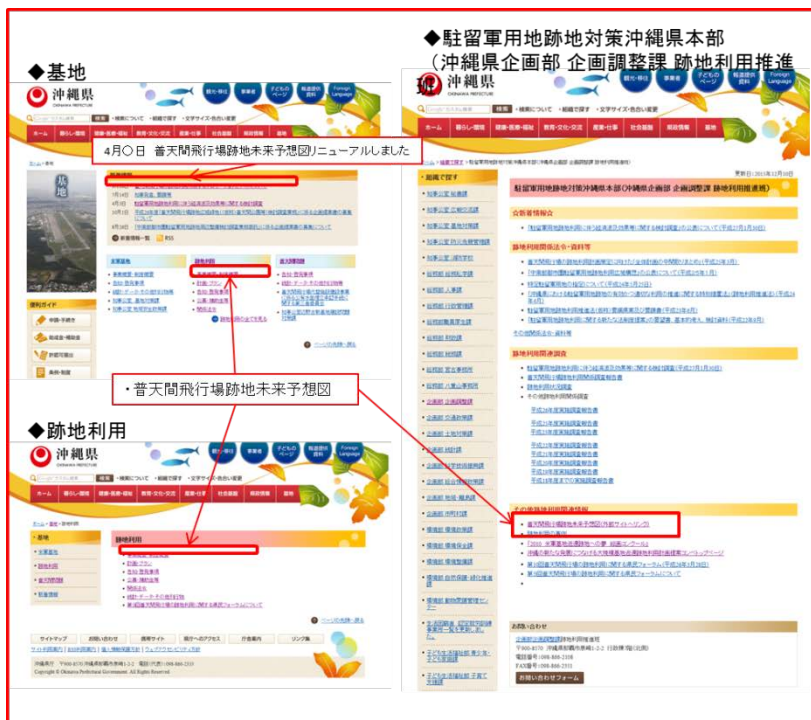


◆普天間飛行場跡地未来予想図 (外部サイト)



【新ルート】

リニューアル後は、誘導ルートを「基地」「跡地利用」「跡地利用推進班」の3ルートに拡大し、なるべく多くの方にHPを見ていただけるように改良し誘導を強化する。



◆普天間飛行場跡地未来予想図 (新サイト)



●宜野湾市 現時点では誘導ルートが複数あるので、現行の更新を行う。

改良については、運用を進めていく中で検討していくものとする。